

**教育に関する事務の点検及び評価報告書
(令和3年度実施分)**



泉佐野市教育委員会

は じ め に

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

この報告書は、これに従い、令和3年度に本市教育委員会が実施した事務事業についての点検及び評価を行い、その結果をまとめたものです。

令和3年度におきましては、学力向上の取り組みといたしまして、引き続き「学力支援コーディネーター」等の活用と「授業改善に資する学びの創造」講座の実施により教職員の指導力・授業力の向上を図るとともに、「泉佐野まなびんぐサポート事業」や「算数サポート補助教員事業」など、児童生徒への学習支援を行ってまいりました。

また、個別の課題によりきめ細かく対応できるよう、平成28年度から小学校3・4年生を対象に実施しました「35人以下の少人数学級」を小学校6年生まで拡充いたしました。

教育環境面では、災害時の飲料水を確保する避難所としての役割を果たすことができる浄水型プールの建設、小中学校の屋内運動場の空調設備などの施設整備を行うとともに、小学校図書室改修工事の実施設計、中学校グラウンドへの夜間照明設置工事及びトイレ改修（洋式化）実施設計にも着手し、食育の推進と児童生徒の健康づくりについては、安全で安心な給食の提供に努めてまいりました。

一方、社会教育の分野におきましては、市民一人ひとりが個性と能力を伸ばし、生きがいのある充実した生活を送ることができるよう、生涯学習、スポーツ、文化の振興や青少年の健全育成、歴史的資産の保存と活用を通じて、「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べるまちづくりを推進してまいりました。

今後も、今回の点検及び評価結果を事業の改善に役立てながら、より一層効果的な教育行政の推進を図ってまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和5年3月

泉佐野市教育委員会
教育長 奥 真弥

目 次

1	教育委員会の概要	1
2	評価項目・基準・結果表	4
3	点検及び評価の結果	6
(1)	観光に関すること【歴史文化の保存活用】	6
①	歴史文化の保存活用	7
(2)	国際化に関すること【国際化の推進】	16
①	国際交流の推進	17
(3)	子ども・子育てに関すること【教育・保育の充実】	18
①	幼児教育の充実	19
②	留守家庭児童会の充実	21
(4)	学校教育に関すること【義務教育の充実】	22
①	義務教育の充実	23
	ア 学力の向上	23
	イ 教育委員会の円滑な運営	26
	ウ 義務教育施設等の整備	28
	エ 学校教育事業	33
	オ 小中一貫教育	40
	【地域連携の充実】	41
②	地域教育協議会の充実	42
	【人権教育の充実】	43
③	人権教育の推進	44
④	人権教育の充実	46
	【学校給食の充実】	48
⑤	安心・安全な小学校給食の提供、食育の推進	49
⑥	安心・安全な中学校給食の提供、食育の推進	51
(5)	生涯学習・スポーツに関すること【生涯学習の推進】	54
①	生涯学習の推進	55
	ア 生涯学習の環境づくり	55
	イ 生涯学習の推進	57
	ウ 資料・情報提供の推進	60
	【生涯スポーツの振興】	68
②	生涯スポーツの振興	69
	【地域の社会教育活動への支援】	72
③	組織運営の拡充	73
	【青少年の健全育成】	74
④	青少年の健全育成	75
4	学識経験者の評価	78

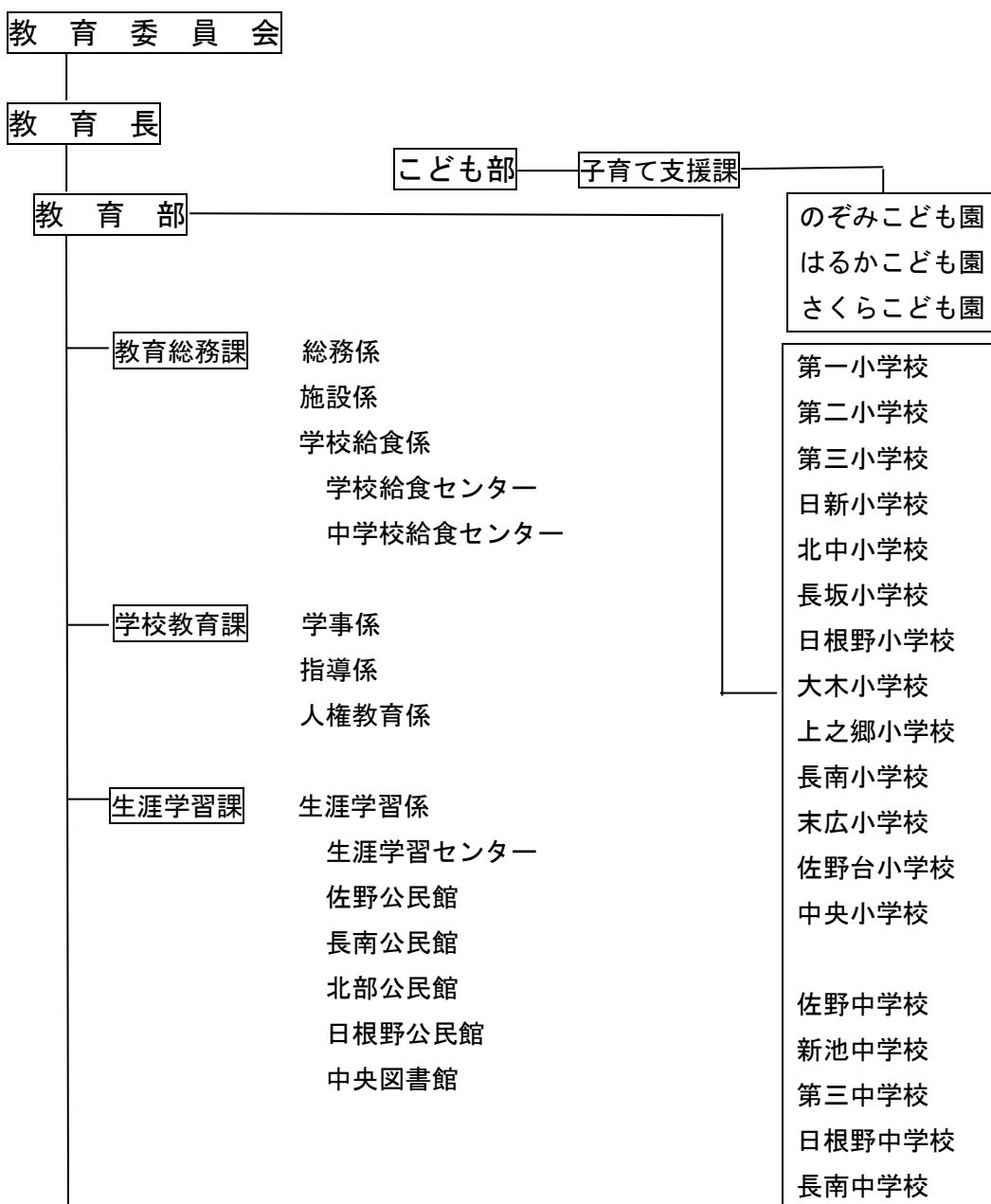
1 教育委員会の概要（令和3年度）

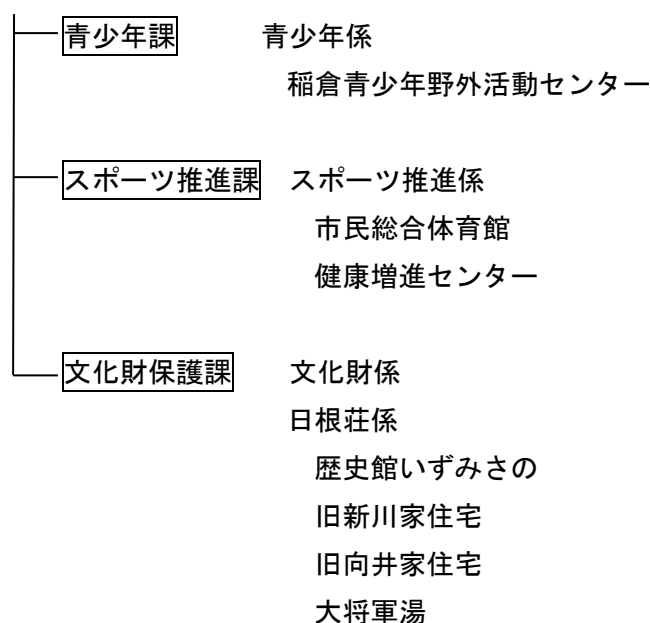
泉佐野市教育委員会事務局 所在地 泉佐野市市場東1-1-1
 電話 072-463-1212
 Fax 072-469-5267
 Email k-soumu@city.izumisano.lg.jp

(1) 市の概要（2021.4.末現在）

人口（99,277人）世帯数（47,601戸）面積（約56.51km²）

(2) 教育委員会組織図（2021.4.1）





(3) 学校園基本統計 (2021. 5. 1)

	学校園数	学級数	園児・児童 ・生徒数	前年比 増減	教職員数
					合計
こども園	3	18	360 (62【1号認定児】)	-28 (-24【1号認定児】)	44
小学校	13	241	4,654	-44	398
中学校	5	91	2,274	-116	203

注) 1号認定児とは、子ども年齢が満3歳から5歳までの、保育に必要な事由(保護者の就労、妊娠、出産、疾病、障害など)に該当しない場合で、4時間程度の教育標準時間で通園するもの。

(4) 教育重点目標

○学校教育について

- ・児童・生徒に、学習の喜びと、あすへの希望を
- ・児童・生徒に、健やかな体と、豊かな心を
- ・教員に、教育者としての自覚と、高い指導力を
- ・教員と児童・生徒に、心のふれあいを
- ・学校に、正しい秩序と、健全な校風を

○社会教育について

- ・青少年に、豊かな情緒と、正しい人間性の醸成を
- ・市民に、生涯にわたって学ぶ意欲と、健康を
- ・地域活動を通じて連帯意識の高揚を

○文化・芸術について

- ・文化財の正しい理解と、保存・活用を
- ・住民の文化活動を盛り上げ、新しい文化の創造を

(5) 教育重点施策

- ・学校の管理運営に厳正を期する
- ・学校教育環境の整備充実に努める
- ・公教育担当者としての責務を遂行する
- ・適正な教育課程を編成し、有効な学習指導を行う
- ・道徳性を養い、人権教育の推進に努める
- ・障害教育の振興に努める
- ・生徒指導の充実を図る
- ・健康教育の充実と体力づくりの推進をする
- ・学校園内外の安全確保に努める
- ・こども園における教育・保育の充実を図る
- ・地域社会の中で子どもを育てる教育コミュニティーづくりを躍進させる

2 評価項目及び基準

(1) 評価項目

第5次泉佐野市総合計画の施策体系を参考にし、施策に基づく各事業を評価項目対象として、事務局で自己評価を行い、全体評価を第三者にお願いした。

政 策	部 門	施 策
活力・賑わい	(1)観光に関すること 【歴史文化の保存活用】	① 歴史文化の保存活用
	(2)国際化に関すること 【国際化の推進】	① 国際交流の推進
子育て・教育	(3)子ども・子育てに関すること 【教育・保育の充実】	① 幼児教育の充実 ② 留守家庭児童会の充実
	(4)学校教育に関すること 【義務教育の充実】	① 義務教育の充実 ア 学力の向上 イ 教育委員会の円滑な運営 ウ 義務教育施設等の整備 エ 学校教育事業
	【地域連携の充実】	② 地域教育協議会の充実
	【人権教育の充実】	③ 人権教育の推進 ④ 人権教育の充実
	【学校給食の充実】	⑤ 安心・安全な小学校給食の提供、食育の推進 ⑥ 安心・安全な中学校給食の提供、食育の推進
	(5)生涯学習・スポーツに関すること 【生涯学習の推進】	① 生涯学習の推進 ア 生涯学習の環境づくり イ 生涯学習の推進 ウ 資料・情報提供の推進
	【生涯スポーツの振興】	② 生涯スポーツの振興
	【地域の社会教育活動への支援】 【青少年の健全育成】	③ 組織運営の拡充 ④ 青少年の健全育成

(2) 評価基準

点検及び評価結果の基準については、以下のA、B、Cの3段階で行った。

A	(順調)	優れた取り組みや状況等が見られ、課題はほとんどなく、順調に目標が達成されたもの
B	(概ね順調)	良い取り組みや状況等が見られ、目標達成に若干の課題を含みつつも一方で一定の成果が見られるなどの点により、概ね目標が達成されたもの
C	(順調でない)	課題が多く、まだ改善に向けた取り組みに着手できていないか、着手してもほとんど成果が上がらないなど目標がほとんど達成できなかったもの

(3) 点検及び評価の結果

部門基準		(1)観光に関すること	(2)国際化に関すること	(3)子ども・子育てに関すること
A	(順調)	0	—	5
B	(概ね順調)	9	—	1
C	(順調でない)	0	—	0
合計		9	—	6
部門基準		(4)学校教育に関すること	(5)生涯学習・スポーツに関すること	合計
A	(順調)	20	5	30
B	(概ね順調)	19	12	41
C	(順調でない)	0	0	0
合計		39	17	71

※本年度は、ベトナム社会主義共和国ビンディン省との友好交流事業、青少年海外研修事業、英語教育推進校生徒派遣事業、マラソン交流事業とも、新型コロナウイルス感染症拡大により事業は未実施のため、上記結果からは除外した。

3 点検及び評価の結果

【活力・賑わい】

(1) 観光に関すること

【歴史文化の保存活用】

①歴史文化の保存活用

目 標

史跡日根荘遺跡を含む指定文化財、埋蔵文化財等、地域の歴史と文化を物語る貴重な文化財を、すべての市民が親しみを持ち、誇りを持つことで、地域の活性化につながるよう保存と活用をめざす。(文化財保護課)

取組及び実績

○文化財保存事業 <評価> B

本市における文化財やその他の歴史資料の保存及び活用を図り、その重要事項の調査審議に関しては泉佐野市文化財保護審議会の指導のもと、保存事業の推進に努めた。

- ・指定文化財の所有者に対し、維持管理（一部）等への補助金交付
国指定文化財維持管理（4件） 令和3年度 事業費 207,000円
(令和2年度 事業費 189,000円)
- ・国補助及びその他の助成事業を受けて実施される民俗芸能の継承、文化財の普及啓発（展示）事業、情報発信
泉佐野市文化遺産活用活性化事業
令和3年度 7件 事業費 10,891,000円
(令和2年度 5件 事業費 9,564,000円)
- ・文化財保存活用地域計画作成事業 令和3年度 事業費 718,600円
令和2年度 事業費 4,318,210円
- ・文化財の普及に係る講師派遣等 令和3年度 5件 (令和2年度 7件)
- ・歴史館いずみさの資料の収集 令和3年度 8件 (令和2年度 8件)
- ・歴史館いずみさの資料の整理 令和3年度 1件 (令和2年度 1件)

○史跡等保存事業 <評価> B

史跡名勝天然記念物の保存活用等を図る。全国で3箇所しかない中世荘園遺跡である国史跡日根荘遺跡指定地の適切な保存と管理をめざすとともに、日根荘遺跡の追加指定を進める。日根荘遺跡（長福寺跡）において暫定活用事業を実施し、史跡の活用を図った。また、国重要文化的景観日根荘大木の農村景観の保護と活用に努めた。

- ・史跡日根荘遺跡保存管理計画に基づく現状変更等行政指導
令和3年度 11件 (令和2年度 10件)
- ・日根荘の文化的景観保護推進事業
日根荘遺跡及び重要文化的景観の活用にかかる講師派遣・現地案内、小学校等の地域学習への協力・連携 令和3年度 4回 (令和2年度 8回)
日根荘遺跡の文化的景観保護に係るGISデータ作成

- 令和3年度 1件 (令和2年度 1件)
- 重要文化的景観日根荘大木の農村景観の保護に係る泉佐野市日根荘の里大木地区景観計画に基づく届出及び指導等
- 令和3年度 28件 (令和2年度 18件)
- ・ 史跡日根荘遺跡（長福寺跡）暫定活用事業（野外展示・普及活動）
 - 大木小学校の学校田の農作業体験 令和3年度 2回 (令和2年度 2回)
 - ・ 全国史跡整備市町村協議会臨時大会陳情活動・文化庁協議等
 - 令和3年度 1回 (令和2年度 1回)
 - ・ 大木まちづくり協議会
 - 令和3年度 5回 (令和2年度 4回)
 - 大木まちづくり協議会の大木コスモス園実施・花プランター設置に協力
 - ・ 泉佐野市日根荘の里大木地区景観計画審議会
 - 令和3年度 0回 (令和2年度 0回)
 - ・ 日本遺産「日根荘」推進事業
 - 協議会開催・イベント出展・シンポジウム・巡回パネル展等
 - 令和3年度 7回 (令和2年度 9回)
 - 日本遺産ガイド養成講座の実施 令和3年度 3回 (令和2年度 7回)
 - ・ 日本遺産「北前船」推進事業
 - 認定記念式典、フォーラム・協議会等 令和3年度 3回 (令和2年度 4回)
 - ・ 日本遺産「葛城修験」推進事業
 - 認定記念シンポジウム、協議会等 令和3年度 6回 (令和2年度 5回)

○発掘調査事業 <評価> B

開発事業と文化財保護行政の円滑な調整により遺跡が守られ、かつ、開発事業も遅延なく推進できることをめざす。具体的には文化財保護法に基づく届出（通知）、または泉佐野市開発指導要綱に基づく試掘依頼書のあった開発事業に対し、必要な場合、工事着手前に確認（試掘）調査を実施した。また、その調査の結果、遺跡の破壊が免れない場合、記録保存調査を実施し適切な保護にあたった。成果については随時整理を行い、普及事業など市民ニーズに対応して実施する。

- ・ 市内遺跡の各種開発に伴う試掘・確認調査 令和3年度 18件 (令和2年度 21件)
- ・ 個人住宅建設等に伴う記録保存調査 令和3年度 0件 (令和2年度 0件)
- ・ 公共事業に伴う試掘・確認調査 令和3年度 0件 (令和2年度 3件)
- ・ 開発事業と遺跡の保存に係る窓口・電話対応業務
 - 令和3年度 平均5件/日、1, 210件/年
 - (令和2年度 平均5件/日、1, 210件/年)
- ・ 埋蔵文化財の発掘届出・通知件数 令和3年度 234件 (令和2年度 182件)
- ・ 開発事業に係る協議 令和3年度 98件 (令和2年度 65件)

- ・市内遺跡等発掘調査による出土品整理等業務
令和3年度 4件（令和2年度 7件）
- ・記録保存調査に伴う調査報告書作成業務 令和3年度 1冊（令和2年度 1冊）
- ・泉州南埋蔵文化財行政広域連携事業の検討・委託…泉南市、阪南市、田尻町

○庁舎管理事業 <評価> B

- ・出土品や記録資料を適切に保管・収蔵するために、文化財保護課分室（S造2階、延べ床面積420㎡、平成9年竣工）の維持管理を行った。また、それらを定期的に公開し、市民への調査成果の還元を図った。出土品や記録資料の整理については進捗状況等も含め、ホームページ等を活用し情報発信を行っていく。
- ・文化財保護法に基づく発掘調査事業の記録資料の整理・出土品の収蔵量
総コンテナ数[累積] 令和3年度6,969箱（令和2年度6,965箱）
- ・発掘調査事業及び公共・民間各種開発事業に伴う資料の整理・復元業務
- ・出土品及び記録資料の貸し出しまたは見学業務 令和3年度0件（令和2年度0件）

○文化財施設管理事業 <評価> B

- ・指定管理者制度による旧新川家住宅の管理・運営
入館者 令和3年度 4,952名（令和2年度 3,176名）
- ・市指定文化財旧向井家住宅の管理運営において、地元ボランティア団体かやぶき保存会の協力を得て、泉佐野市に唯一残る江戸時代のかやぶき農家の公開及び管理業務を行った。
市指定文化財旧向井家住宅の見学者・利用者数
入館者 令和3年度 754名（令和2年度 175名）
- ・重要文化財奥家住宅の管理運営において、地元団体の奥家住宅保存会の協力を得て、管理業務を行った。
重要文化財奥家住宅の管理日 令和3年度104日（令和2年度104日）
- ・登録有形文化財大將軍湯の管理運営において、地元団体の大將軍湯保存会の協力を得て、管理業務を行った。
登録有形文化財大將軍湯の管理日 令和3年度103日（令和2年度100日）

○重要文化財保存整備事業 <評価> B

- ・市指定有形文化財妙光寺三十番神堂檜皮葺替災害復旧事業 令和2年～3年 1件
- ・国登録有形文化財大將軍湯耐震補強計画、基本・実施設計業務 令和3年度 1件
- ・重要文化財奥家住宅東塀仮設養生工事 令和2年度～3年度 1件

○史跡日根荘遺跡整備事業 <評価> B

- ・国史跡日根荘遺跡保存整備委員会 令和3年度0回（令和2年度0回）
- ・文化的景観保護推進事業 林道復旧修理工事 令和3年度1件（令和2年度1件）
- ・史跡日根荘遺跡円満寺屋根改修工事 令和3年度1件

○一般事務事業 <評価> B

- ・第9回いずみさの検定

泉佐野市の市政・歴史・文化について広く知っていただくため、いずみさの検定を実施した。

いずみさの検定受験者数 令和3年度87人（令和2年度91人）

○歴史館管理運営事業 <評価> B

常設展「中世荘園の人びと」の運営及び特別展等の開催。普及啓発事業の開催。展示室への入場料を無料とした平成25年度以降、有料時（平成24年度）と比較して、総利用者数が増加している。また、特別展等及びエントランスホールを活用した情報発信を行い、下記の内容による普及啓発事業を行った。

開館日数 令和3年度 250日（令和2年度 246日）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年4月25日～6月20日まで臨時休館

入館者数 令和3年度 4,520人（令和2年度 4,097人）

総利用者数 令和3年度 5,132人（令和2年度 4,534人）

展示・普及啓発事業の状況

(1) 常設展について

タイトル	期間(日数)	観覧者数
常設展「中世荘園の人びと」	4月1日～3月31日 (112日)	1,490名

(2) 特別展等について

タイトル	期間(日数)	観覧者数
春季企画展「絵図を読む」	4月29日～7月25日 (29日)	394名
秋季特別展「いのりよ、とどけ」	10月9日～12月12日 (54日)	1,331名
冬季企画展「むかし なつかし 昭和のくらし」	1月15日～3月21日 (55日)	1,305名

合 計	3回	3,030名
-----	----	--------

(令和2年度特別展等4回 3,439名)

(3) ホールについて

タ イ ト ル	期 間 (日数)	観 覧 者 数
日根荘コーナー	4月1日～3月31日 (250日)	4,520名
図書閲覧コーナー		
市民が参加する歴史館(歴史館ギャラリー)「衣通姫イラスト原画巡回展2021」	9月1日～9月29日 (25日)	344名
市民が参加する歴史館(歴史館ギャラリー)「日本遺産『葛城修験』リレーパネル展示会」	2月15日～2月20日 (6日)	128名

(4) 普及啓発事業について

展示関連講演会・展示解説

講 演 ・ 講 座 ・ 講 習 名	講 演 会 ・ 講 座	展 示 解 説	参 加 者 数
春季企画展講演会「絵図で見る泉佐野」	—	6回	14名
秋季特別展開催記念講演会「人々のいのりとまじない～泉佐野の信仰資料～」	1回	2回	64名
冬季企画展	2回	4回	27名
計	3回	12回	105名

講演会・講座

講 演 ・ 講 座 ・ 講 習 名	回 数	参 加 者 数
館長講演会	2回	33名
副館長特別講座	3回	74名
歴史学講座	17回	517名
古文書講座	2回	45名
学芸員の出張講演・講座	12回	441名
計	30回	526名

講師派遣・各種団体との連携事業

講 演 ・ 講 座 ・ 講 習 名	回 数	参 加 者 数
体験学習 「土曜れきし館ワークショップ」	25回	319名

冬季企画展イベント「昭和歌謡祭」	6回	58名
小学校出前授業	2回	154名
小中学校見学対応	5回	289名
その他見学対応	7回	73名
でかける歴史館	1回	17名
計	46回	910名

(5) 博物館実習

令和3年度 3件 8月17日(火)～ 8月21日(土)
(令和2年度 1件)

取組の効果

・文化財保存事業

文化財を適切に保護することで、文化財としての価値を維持し、地域の活性化やまちづくりに寄与し、市民の郷土や文化財への理解と関心を高めることができた。また、今後の文化財保存のため、歴史史料や建造物の文化財調査を行った。

・史跡等保存事業

国史跡指定地の多くが日常的に生業・生活等の場として利用されており、文化財としての価値を維持しつつ適切な保存と管理を進めることができた。

平成25年10月に選定された重要文化的景観日根荘大木の農村景観についての保護推進や普及事業等とともに、地域の文化財や景観の保護について取り組みを進めることができた。

令和元年5月に日本遺産「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち—中世日根荘の風景—」が認定されたことに伴い発足した、日本遺産日根荘推進協議会の事務局事務及び補助金申請事務等を行い、日本遺産ガイド養成講座や全国中世荘園サミット in 東京、日本遺産「日根荘」パネル in 東京、日本遺産「日根荘」PRワークショップの運営、歴史漫画「日根荘物語」、「日根荘」周遊促進ARアプリ、「衣通姫イラストコンテスト」の開催等、人材育成・普及啓発等について取り組みを進めることができた。

令和2年6月に、複数の市町村にまたがってストーリーが展開するシリアル型の日本遺産である「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の認定を受けたことに伴い、北前船日本遺産推進協議会とは別に発足した、泉佐野北前船推進協議会の事務局事務及び補助金申請事務等を行い、周遊アプリの開発を始める等、情報発信についての取り組みを進めることができた。

同時に、同じくシリアル型の日本遺産である「葛城修験—里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」の認定を受け、葛城修験日本遺産活用推進協議会に参画し、普及啓発

関連事業について取り組みを進めることができた。

また、令和元年度より策定を進めてきた文化財保存活用地域計画事業が完了し、7月に文化庁より認定を受けた。成果物として地域計画の冊子を協力・関係機関に送付した。また、地域計画策定事業に伴い得られた成果を講演等を行うことで市民に還元することができた。

市史編纂事業で収集した史料を日本遺産のPRで活用した。

・発掘調査事業

文化財保護法により事業実施は定められており、埋蔵文化財の価値を損なう開発事業等に対して、遺跡の有無・範囲・内容を把握するために緊急的な発掘調査を実施し、遺跡の取り扱いに関して円滑な調整を図るとともに、適切な保存措置を講じることができた。また、発掘成果や遺物は、歴史館いずみさのでの展示を通じて、市民に広くその重要性について啓発することができた。

近年の埋蔵文化財行政については、近隣市町村の専門担当者の雇い止め、高齢化に伴い、大規模な開発に対応できないことから、埋蔵文化財行政の先進市である本市が、泉南市・阪南市・田尻町と事務委託を締結し、予算比調整を行い、令和4年度より泉州南埋蔵文化財行政広域連携事業として開始する運びとなった。

・庁舎管理事業

発掘調査事業で得られた出土品や記録資料の保管・収蔵を適切に行い、報告書作成及び展示業務を進める上での基礎作業を行うことができた。

・文化財施設管理事業

泉佐野市では民家住宅の文化財建造物が多く、その維持管理と活用が大きな課題となっている。旧新川家住宅、旧向井家住宅、奥家住宅、大將軍湯において、指定管理者あるいは地元の保存会と事業展開を図ることにより、適切で効果的な維持管理及び公開を行うことができた。

・重要文化財保存整備事業

重要文化財・府指定文化財の修理等に対する補助を実施し、文化財保存に向けた対策を進めることができた。

・史跡日根荘遺跡整備事業

国史跡日根荘遺跡保存整備委員会を開催し、日根荘遺跡保存活用計画の策定事業を行った。また、日根荘大木の重要文化的景観の保護を推進した。

- ・一般事務事業

いずみさの検定を開催することで、泉佐野市のPRにつながった。

- ・歴史館管理運営事業

平成28年度より指定管理者制度に移行し、公益財団法人大阪府文化財センターが指定管理者として歴史館の管理運営を行っている。日根荘をテーマとした常設展示のほか、泉州地域の幅広い歴史・文化についての展示や、講座や講演会の開催、ホームページによる情報発信等により、年々高まりつつある市民の歴史・文化に関する学習ニーズに応えるとともに、新たな興味関心の掘り起こしに努めた。

また、日本遺産「日根荘」事業として、歴史館いずみさののエントランスホールを日本遺産ガイダンスセンターとして改修し、日根荘及び日本遺産にかかる情報発信機能の強化に努めることができた。

市史編纂事業で収集した史料を特別展・企画展で活用した。

今後の課題

- ・文化財保存事業

文化財を保存・活用するためには、適切に保存管理することが基本であり、文化財の指定・登録・保存整備及び維持管理は今後も継続的に行う必要がある。併せて、文化財の保存には地域と市民の理解と協力が不可欠であり、積極的に文化財を公開するとともに、文化財のより一層の周知・広報に努め、普及啓発を推進する。また、未指定文化財の選定調査、指定化を進める必要がある。

- ・史跡等保存事業

国史跡日根荘遺跡の新たな追加指定地にかかる適切な保存と日常的な管理を所有者と共通の認識を育むために保存管理計画の策定に基づいて、将来の史跡公園などへの整備をめざすことが必要である。

また、重要文化的景観日根荘大木の農村景観の保全に向け、景観計画と合わせて地域とともに文化財と景観の保護について継続的な啓発や普及事業を推進する。

3つの日本遺産の市外への周知、民間と連携した取り組みを徹底する。

- ・発掘調査事業

迅速かつ効率的に実施するために発掘調査基準等を踏まえた発掘調査の実施と窓口業務から保存までの事務手続き及び調査・協議体制の充実に努める。また、「埋蔵文化財の保護体制の整備充実について」（平成8年、文化庁）を受けて、今後は発掘調査事業への民間調査組織の導入も予想されることから、そのための監理・判断が可能な体制づくりが求められる。調査成果の即時公開や普及啓発にかかる業務を一層推進する。

泉州南埋蔵文化財行政広域連携事業の開始に伴い、広域連携事業の充実と拡充、適切な人員配置と専門知識の習熟に努める。

- ・ 庁舎管理事業

出土品他収蔵資料のデータベース化を継続して行い、広く検索・貸出機能がスムーズに行えるよう推進する。そして、資料データのアーカイブ化に努める。

- ・ 文化財施設管理事業

旧新川家住宅、旧向井家住宅、奥家住宅、大將軍湯については、文化財の価値を維持するため、保存修理等の対策を推進する。

- ・ 重要文化財保存整備事業

指定文化財の保存に必要な整備等の事業を、所有者等と連携しつつ実施し、文化財保存に向けた対策を推進する。特に、重要文化財奥家住宅の東土塀の復旧工事について、先行して整備を進める。

- ・ 史跡日根荘遺跡整備事業

史跡日根荘遺跡および日根荘大木の重要文化的景観の保存活用に必要な整備事業を、所有者・管理者等と連携しつつ実施し、将来的に史跡指定地の公有化及び整備計画の検討を行い、史跡環境の充実に向けた推進する。

- ・ 歴史館管理運営事業

未だ歴史館を利用されていない市民の利用を促進する必要がある。歴史館の所蔵資料のデータベースのうち、公開のための整理ができていないデータベースの整理作業及びアーカイブ化と公開を図る必要がある。

【活力・賑わい】

(2) 国際化に関すること

【国際化の推進】

①国際交流の推進

目 標

海外派遣・受入事業や文化・スポーツ交流事業を展開することにより、本市の未来を担う若い世代の国際感覚を養い、市民の国際意識の高揚に努める。(学校教育課)

取組及び実績

○ベトナム社会主義共和国ビンディン省との友好交流事業 <評価> —

令和元年10月に友好交流の覚書を締結したベトナム社会主義共和国ビンディン省へ市立中学校の生徒を派遣し、歴史遺産等の見学による歴史学習や地元中学生等との遊びや文化の紹介などの交流を通じて、友好の絆を深める。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により事業中止。

○青少年海外研修事業 <評価> —

青少年をオーストラリア連邦クィーンズランド州サンシャインコーストへ派遣し、英語研修や文化体験を実施するとともに、ホームステイや学校・高齢者施設訪問など現地の人々との交流を通して国際感覚を磨くことにより、本市の国際化を推進する人材育成に努める。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により事業中止。

○英語教育推進校生徒派遣事業 <評価> —

英語に対する学習意欲を高めることを目的として、市立中学校3年生の生徒10名をオーストラリア連邦クィーンズランド州サンシャインコーストへ派遣する。現地では、英語レッスンやホームステイなどを行い、外国の言葉と文化に触れ、人々とふれあうなかで国際理解を深める。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により事業中止。

○マラソン交流事業<評価> —

生涯にわたりスポーツに親しむ人々が増えるなか、マラソン大会出場を中心に据えて市民レベルでの国際交流を展開する。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により事業中止。

※上記4事業、ベトナム社会主義共和国ビンディン省との友好交流事業、青少年海外研修事業・英語教育推進校生徒派遣事業・マラソン交流事業とも、新型コロナウイルス感染症拡大により事業は未実施のため、評価不能。

【子育て・教育】

(3) 子ども・子育てに関すること

【教育・保育の充実】

①幼児教育の充実

目 標

人間形成の基礎となる心情・意欲・態度を育てるなど、心豊かな人間づくりのための教育を進める。（こども部子育て支援課・学校教育課・教育総務課）

取組及び実績

- ・幼児教育の振興充実（健康に留意し、園生活の中で人間形成の基礎となる心情・意欲・態度を育て、社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の形成に努めた。）

○こども園健康管理事業 <評価> A

園児の健康管理をした。

- ・尿検査実施人数 延べ 令和3年度 346人（令和2年度 333人）

○幼稚園利用助成事業 <評価> A

令和元年10月からは幼児教育・保育無償化に伴い、私立幼稚園に対し、幼稚園利用助成事業補助を行った。

- ・幼稚園利用助成事業補助額 令和3年度 280件 82,792,260円
令和2年度 309件 90,308,850円

○こども園教育研究事業 <評価> A

- ・公立こども園教員の研修を行い、視野を広め、資質向上を図った。
- ・研修会実施回数 令和3年度 34回（令和2年度 35回）

○こども園通園バス事業 <評価> A

- ・公立こども園に在園する園児の送迎。
- ・バス運行台数 令和3年度 4台、利用者数 42人
（令和2年度 4台、利用者数 58人）

○こども園運営事業 <評価> A

こども園における消耗品・備品等については、配分予算により執行しており、園児数、クラス数などに応じて配分された予算の中から、各園が工夫し、計画的な整備を進める。（30年度より認定こども園となり全園児数の3、4、5歳児の割合約71%で計算

- ・需用費（消耗品費・印刷製本費・修繕料・医薬材料費など）
令和3年度 43,752千円（令和2年度 45,927千円）

・備品購入費（教材等）

令和3年度 2,731千円 （令和2年度 2,915千円）

取組の効果

- ・コロナ禍ではあるが、教職員の資質向上のため、工夫を凝らし教職員の研修は可能な限り継続することができた。
- ・限られた予算の中で教材、消耗品、備品等教育環境の充実をさせることができた。特に新型コロナウイルス感染症に対する補助金により、対策の備品等充実させることができた。

今後の課題

- ・地域に根ざした行事や取り組み等を質・量ともに充実させることに努める。
- ・社会状況に応じた認定こども園の教育環境整備と円滑な運営。
- ・平成30年度認定こども園化における教育体制の整備。
 - ・様々な感染症対策の必要性があるため、対策の研究、備品の購入等に努める。

②留守家庭児童会の充実

目 標

保護者が就労等の理由により、昼間、家庭にいない児童たちに、平日の放課後や土曜日、長期休業日において、家庭に代わる生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るとともに、保護者が安心して仕事と子育ての両立が出来るように支援すること。(学校教育課)

取組及び実績

○泉佐野市放課後児童健全育成事業 <評価> B

留守家庭児童会一覧(登録者数5/1現在)

第一小学校留守家庭児童会	令和3年度	56名	(令和2年度	73名)
第二小学校留守家庭児童会	令和3年度	151名	(令和2年度	185名)
第三小学校留守家庭児童会	令和3年度	28名	(令和2年度	34名)
日新小学校留守家庭児童会	令和3年度	127名	(令和2年度	125名)
北中小学校留守家庭児童会	令和3年度	80名	(令和2年度	78名)
長坂小学校留守家庭児童会	令和3年度	29名	(令和2年度	32名)
日根野小学校留守家庭児童会	令和3年度	218名	(令和2年度	243名)
大木小学校留守家庭児童会	令和3年度	10名	(令和2年度	9名)
上之郷小学校留守家庭児童会	令和3年度	66名	(令和2年度	86名)
長南小学校留守家庭児童会	令和3年度	58名	(令和2年度	73名)
末広小学校留守家庭児童会	令和3年度	52名	(令和2年度	54名)
佐野台小学校留守家庭児童会	令和3年度	56名	(令和2年度	44名)
中央小学校留守家庭児童会	令和3年度	131名	(令和2年度	156名)

開設日及び開設時間

月曜日から金曜日の放課後 授業終了後から午後7時まで(延長保育も含む)

土曜日及び長期休業日 午前8時30分から午後7時まで(延長保育も含む)

平成27年度～令和3年度は、株式会社セリオに業務委託により実施。

各留守家庭児童会で週2回、学習支援プログラムを実施。

取組の効果

- ・すべての小学校区で待機児童を出さずに、すべての登録者が利用できた。

今後の課題

- ・民間による大規模開発等による対象児童数の増加による待機児童数の発生が懸念される。

【子育て・教育】

(4) 学校教育に関すること

【義務教育の充実】

①義務教育の充実

ア 学力の向上

目 標

基礎、基本的な学習内容の確実な定着と、自ら学び、考える力など、「確かな学力」の育成を図るとともに、児童生徒や保護者・地域ニーズをふまえた、特色ある教育課程の編成、教育環境の充実を進める。（学校教育課・教育総務課）

取組及び実績

・教育内容の充実及び特色ある取り組みの展開

○いずみさの教育文化運動＜評価＞ A

泉佐野市教育委員会では、学力向上を学校教育における最重要課題の一つとして、平成20年度に学力向上プロジェクトチーム（学力PT）を設置した。

学識経験者、校長及び指導主事で構成される本PTは、豊かな教育文化の創造をめざすことによって初めて、学力向上が可能になり、そのためには教職員の指導力の向上と家庭・地域・社会の教育力の高まりが欠かせぬものであるとの認識のもと、「学力を支える4つの力」の育成をめざし「いずみさの教育文化運動」を提案した。この運動は平成21年度から実践されてきたが、令和3年度においては、主に4つの取り組みを実施した。

「学力を支える4つの力」の育成

①文化力の向上

- ・芸術活動やスポーツを楽しむ子どもを育成する。
- ・文化、歴史、産業などの学習活動を通して地域を愛し大切にする子どもを育成する。

②学び力の向上

- ・わかる授業、楽しい授業、学習規律を確立し、子どもの学び力を向上させる。
- ・家庭学習習慣の定着を図る。
- ・子どもが将来に夢と希望をもち学習できるようキャリア教育を推進する。

③人間力の向上

- ・基本的な生活習慣の確立、道徳教育の推進により、子どもの自尊感情を高め、仲間を大切にする心を育む。
- ・人権教育の推進や人間関係力を育成する。

④教育力の向上

- ・保護者に信頼され、地域に愛される学校・園となるよう教育研究、研修を推進する。
- ・家庭や地域との協力、連携を図る。

・「4つの取り組み」

① 「学びの場研修」の設定

学校園が直面する課題への対応の研究と子ども理解に基づく実践・方策の提案をとおして、すぐれた実践力をもつ教職員の育成、教育活動推進の気運の醸成を行うことを目的に、年間3回の研修会を実施した。

② 「授業改善に資する学びの創造」講座の実施

子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」をめざして、先行的な実践者による研修や、具体的な授業研究を連続講座として実施することにより、教職員の実践的な指導力や授業力を高め、子どもたちのコミュニケーション力や集団づくりに基づく確かな学力を育む魅力ある授業づくりの創造についての共通理解を深めた。モデル校での公開授業を中心に市域全体に発信共有し、年間5回開催した。

③ 「人間関係づくりの研究」の推進

感情のコントロールや子どもたちの心育で、コミュニケーションスキル等の人間関係づくりは、学力向上にとって不可欠な要素であると捉え、市全体で取り組むことができる一つの手法として「セカンドステップ」を導入し、その研修や研究を推進する。「セカンドステップ」には次のような効果が期待できる。

- ・怒りの感情をコントロールすることができるようになる
- ・相手の気持ちがわかり、自分の気持ちを適切に表現できるようになる
- ・困った場面で、何をすればいいか理解でき行動できるようになる
- ・指導する時に、予防的に学んだことを思い出させ、どうすれば良かったかを問うことで行動をふりかえらせることができる

④ 「泉佐野市教育フォーラム」の開催

保護者や市民と教職員がともに研修できる場として、また教育の取り組みや成果等を発表する場として、泉佐野市PTA連絡協議会と協働で「教育フォーラム」を実施した。

・教育委員会ニュースの発行

各校園の様々な取り組みや行事を多くの人々に発信し紹介することにより、学校園間における情報交流及び共有を進め、教育内容の充実を図った。また、教育委員会主催の講演会・研修会等の情報提供や内容紹介により教職員の資質向上に努めた。

- ・発行号数 6号（市教育委員会のホームページ参照）

○少人数学級の推進 <評価> A

小学校の3～6年生の学級定数が35人以下（国は40人）となるように、小学校7校【第一小学校の3年生、第二小学校の5年生と6年生、日新小学校の4年生、北中小学校の3年生、日根野小学校の6年生、上之郷小学校の4年生と6年生、中央小学校の4年生】に市単費で9名の教職員の配置を行った。

取組の効果

- ・学力向上プロジェクトチーム会議を6回開催し、「いずみさの教育文化運動」を推進した。
- ・人間関係づくりの研究の一環としてセカンドステップの普及に努めた。
- ・授業改善・集団づくりについての新たな手法について提案した。
- ・少人数学級の推進により教師の関わり方に見られた効果として、子どもたちに対して、教師の目が行き届き、子どもの話をじっくり聞くことができた。また、配慮を要する子どもにきめ細かな対応ができ、良好な人間関係を築くことができた。保護者や教職員からも、先進的な取り組みであり感謝しているとの声が届いている。さらに、フィジカルディスタンスの確保による心の安定や、算数の九九や国語の漢字の定着率にも効果が見られており、基礎学力の向上に効果を上げている。

今後の課題

- ・「いずみさの教育文化運動」のこれまでの成果と課題をふまえ、さらに充実した取り組みをめざす。引き続き、教育活動のベースとなる「子ども理解」を深める研修等を進めていくことが必要。
- ・「全国学力学習状況調査」の結果は、各学校が分析を進め、それぞれの成果や課題、今後の取り組み等について、学校だよりやホームページ等で発信している。教育委員会では、子どもたちに生きて働く確かな学力を育むことを目標として、主体的な学びの実現に向けて、「泉佐野スタンダード」を活用し、授業改善の取り組みを進める。
- ・少人数学級を継続・推進するとともに、他の加配教員による習熟度別指導や専科指導を充実させ、ICT機器等も活用しながら、児童への個別最適な学習を進めていくことが必要。

イ 教育委員会の円滑な運営

目 標

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「泉佐野市教育委員会会議規則」の規定により、「泉佐野市教育委員会の事務委任規則等に関する規則」の規定に基づく事項について審議を行う。また、教育委員が学校訪問し、学校での児童・生徒の様子や学校の施設整備等、現状と問題点を把握し、学校経営・教育活動の改善を図る。

教育委員が市長、市議会議員及び府教育委員と意見交換を行うなど、また、各種研修会に参加することで教育委員としての資質・能力の向上を図るとともに、情報交換を行い、教育問題の把握・解決に努める。（教育総務課）

取組及び実績

○教育委員会運営事業＜評価＞ B

教育委員会議の開催

- ・委員会開催回数 定例会 12回
- ・議案件数 審議件数 31件 報告件数 36件

教育委員体制 7名

教育委員会主催事業等への出席

- ・表彰式、成人式

学校、行事への参加

- ・卒業式

※その他の行事については、新型コロナウイルス感染症拡大により中止及び参加自粛

校園長会への出席

教育委員国際交流事業等同行

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

各種研修会への参加

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止若しくは書面会議

他市教育委員会視察

※新型コロナウイルス感染症拡大により中止

取組の効果

- ・毎月の定例会のほか、教育的課題についての意見交換や対応を検討するため勉強会等を適宜開催した。
- ・教育委員会議は、附議事項の審議を行うとともに、教育委員会事務局からの情報提供や報告事項を伝え理解が深まった。

今後の課題

- ・教育委員会の意思決定に地域住民の意向を反映していくために教育委員会事務局や学校に寄せられた意見等の教育委員への報告や教育委員会や学校が取り組んでいる施策を十分に知らせるよう、積極的な情報発信が必要。

ウ 義務教育施設等の整備

目 標

児童・生徒等の安全を守り、安心して豊かな教育環境を整備するとともに、地域住民の安全と安心を確保する。（教育総務課）

取組及び実績

・学校施設の管理

○学校施設管理事業 <評価> B

市立小中学校における学校施設管理上必要な光熱水費、役務費等を計上。また、各種施設管理委託業務を実施することにより、良好な教育環境の維持に努めた。

・事業費

令和3年度 小学校 157,049,584円 中学校 76,716,501円
(令和2年度 小学校 144,938,611円 中学校 70,125,511円)

○学校施設整備事業 <評価> B

学校施設の維持管理工事を実施することにより、児童・生徒の安全及び教育環境の改善を図るとともに、健康的な学校生活と多彩な学習環境の維持に努めた。

・事業費

令和3年度 小学校 11,085,481円 中学校 2,743,549円
(令和2年度 小学校 12,763,652円 中学校 4,695,394円)

○日新小学校整備事業 <評価> A

教育環境の改善を図る為、トイレ洋式化改修工事を行い、安全で豊かな教育環境の維持に努めた。

日新小学校トイレ改修工事監理業務委託・日新小学校トイレ改修工事

・事業費 27,386,513円

○長坂小学校整備事業 <評価> A

教育環境の改善を図る為、トイレ洋式化改修工事を行い、安全で豊かな教育環境の維持に努めた。

・長坂小学校トイレ改修工事

・事業費 7,711,000円

○中央小学校整備事業 <評価> A

教育環境の改善を図る為、トイレ洋式化改修工事を行い、安全で豊かな教育環境の

維持に努めた。

- ・中央小学校トイレ改修工事監理業務委託・中央小学校トイレ改修工事
- ・事業費 38,022,588円

○末広小学校整備事業（繰越）〈評価〉 A

教育環境の改善を図る為、トイレ洋式化改修工事、屋上防水、外壁改修工事、電気設備工事、機械設備工事等を行い、安全で豊かな教育環境の維持に努めた。なお、本事業は、令和2年度に工事予定であったが、コロナ感染症対策のため、令和3年度に繰り越して事業を実施した。

- ・末広小学校大規模改修工事監理業務委託・末広小学校大規模改修工事・末広小学校大規模改修電気設備工事・末広小学校大規模改修機械設備工事
- ・事業費 118,855,000円

○長南小学校プール整備事業〈評価〉 A

児童の水泳技術の習得及び健康増進と体力向上、浄水型プール設置により災害時の飲料水を確保する避難所としての役割を果たすため、プール整備用地の測量、地質調査、プール整備用地の取得等を行った。

- ・長南小学校プール用地測量業務委託・長南小学校プール整備工事地質調査業務委託・長南小学校プール整備用地取得費・長南小学校プール整備用地取得に係る鑑定書作成業務
- ・事業費 19,999,474円

○小学校空調整備事業〈評価〉 A

屋内運動場の空調設置により、猛暑時の児童の熱中症対策を行うとともに、避難所の環境改善を図るため、屋内運動場空調設備設置工事を行った。

- ・第一小学校・第二小学校・長坂小学校・長南小学校・中央小学校屋内運動場空調設備設置工事監理業務委託・屋内運動場空調設備設置工事
- ・事業費 269,567,467円

○小学校図書室整備事業〈評価〉 A

教育環境の改善を図る為、図書室改修工事を行い、豊かな教育環境の維持に努めるため、図書室改修工事の実施設計を行った。

- ・長坂小学校・上之郷小学校・中央小学校図書室改修工事設計業務委託
- ・事業費 2,728,000円

○長南中学校プール整備事業<評価> A

生徒の水泳技術の習得及び健康増進と体力向上、浄水型プールの設置により災害時の飲料水を確保する避難所としての役割を果たすため、プール建替工事実施設計、地質調査を行った。

- ・長南中学校プール建替工事設計業務委託・長南中学校プール建替工事地質調査業務委託
- ・事業費 10,343,872円

○佐野中学校整備事業<評価> A

教育環境の改善を図る為、トイレ洋式化改修工事を行い、安全で豊かな教育環境の維持に努めるため、トイレ改修工事の実施設計を行った。

- ・佐野中学校トイレ改修工事設計業務委託
- ・事業費 2,035,000円

○中学校空調整備事業<評価> A

屋内運動場の空調設置により、猛暑時の児童の熱中症対策を行うとともに、避難所の環境改善を図るため、屋内運動場、武道場及び配膳室の空調設備設置工事を行った。

- ・日根野中学校屋内運動場・武道場・配膳室空調設備設置工事
- ・事業費 96,873,333円

○中学校屋外照明整備事業<評価> A

市民の生涯スポーツの振興を目的として、学校教育に支障のない範囲で施設開放の拡大を図るため、新池中学校グラウンドへの夜間照明設置工事を行った。

- ・新池中学校屋外照明整備工事監理業務委託・新池中学校屋外照明整備工事
- ・事業費 45,914,000円

・教育環境の充実

○学校管理運営事業<評価> B

学校における消耗品・備品等については、配分予算により執行しており、児童・生徒数、クラス数などに応じて配分された予算の中から、各学校が工夫し、計画的な整備を推進した。

新型コロナウイルス感染症対策では、全小中学校での手指消毒液・マスク・飛散防止用パーテーション等の衛生用品・事務用品等を学校保健特別対策補助金を活用し、児童生徒の感染症防止を徹底した。(需用費12,182,972円)

- ・需用費(消耗品費・印刷製本費・修繕料・医薬材料費等)
- 令和3年度 小学校 22,404,609円 中学校 19,642,729円

(令和2年度 小学校 57,135,241円 中学校 15,817,368円)

・備品購入費(一般・教材・支援・図書備品等)

令和3年度 小学校 12,070,010円 中学校 8,046,167円

(令和2年度 小学校 322,186,883円 中学校 182,981,879円)

うち教材備品

令和3年度 小学校 4,030,734円 中学校 2,463,213円

(令和2年度 小学校 4,271,132円 中学校 2,733,992円)

うち図書購入費

令和3年度 小学校 3,811,227円 中学校 2,479,981円

(令和2年度 小学校 3,758,002円 中学校 2,478,730円)

取組の効果

- ・経年劣化による老朽化に対する継続的な施設整備や非構造部材の耐震化を行うことにより、児童、生徒、地域住民の安全確保等の向上を図ることができた。また、トイレの洋式化改修、プールの整備を行うことにより、教育環境の改善を図ることができた。
- ・多様な学習活動に対応するため、予算の範囲内にて可能な限り備品等の整備を行った。
- ・補助金を活用し、感染症対策を児童生徒に徹底することで、正しい手洗い・咳エチケットなどの基本的な徹底と、感染症を正しく理解するための意識が上がったことで、児童生徒間での感染リスクを下げる事が出来た。

「学校別トイレ洋式化率」

小学校	令和2年3月末	令和3年3月末	令和4年3月末
第一小学校	84.8%	84.8%	84.8%
第二小学校	60.2%	60.2%	60.2%
第三小学校	60.0%	60.0%	60.0%
日新小学校	52.9%	52.9%	88.9%
北中小学校	52.8%	52.8%	52.8%
長坂小学校	56.1%	56.1%	61.4%
日根野小学校	79.2%	79.2%	79.2%
大木小学校	55.0%	55.0%	55.0%
上之郷小学校	44.0%	44.0%	44.0%
長南小学校	70.5%	80.3%	80.3%

末広小学校	50.0%	50.0%	95.9%
佐野台小学校	80.8%	80.8%	80.8%
中央小学校	53.7%	53.7%	95.2%
小学校全体	61.5%	62.3%	72.2%

中学校	令和2年3月末	令和3年3月末	令和4年3月末
佐野中学校	42.1%	42.1%	42.1%
新池中学校	50.0%	50.0%	50.0%
第三中学校	44.9%	47.6%	47.6%
日根野中学校	52.5%	52.5%	52.5%
長南中学校	91.4%	91.4%	91.4%
中学校全体	56.2%	56.7%	56.7%

今後の課題

- ・より安全安心な教育環境の整備を図るため、引き続き非構造部材を含めた耐震化を推進していくとともに、昭和40～50年代に整備された建物が多く、耐用年数を迎えることになる学校施設の老朽化対策として、改築より費用対効果が大きく、環境にやさしい長寿命化改修工事の実施を検討していく必要がある。
- ・新学習指導要領への対応や情報化の進展に伴う情報関連機器の配備、消耗品や備品購入など学校からのニーズに対し、予算の有効活用に努め、事務改善やコスト意識を持つなど更なる創意工夫を行い、効果的な整備充実を図っていく必要がある。

エ 学校教育事業

目 標

人と人とのふれあいを大切にするとともに、学習意欲を高め、特色ある魅力的な学校づくりに努める。(学校教育課)

取組及び実績

- ・確かな学力の育成と人権教育や支援教育、生徒指導やキャリア教育など特色ある教育の推進を行なった。(基本的な学習内容の確実な定着と自ら学び、考える力など、「確かな学力」の育成を図るとともに、児童・生徒や保護者・地域のニーズをふまえた特色ある教育課程の編成を進めた。)
- ・新学習指導要領の本格実施(小学校令和2年度・中学校令和3年度)改訂の趣旨の周知徹底を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」及び「指導と評価の一体化」の実現をめざした授業改善の推進を行った。

○学校教育研究事業 <評価> A

- ・研修会実施回数 令和3年度 14回(令和2年度 14回)
- ・教科領域別研究会 令和3年度465回(令和2年度425回)
- ・学校支援コーディネーター相談回数 令和3年度 63回(令和2年度 71回)
- ・学力支援コーディネーター研究・講演等回数 令和3年度 71回(令和2年度 71回)

※市主催の教職員研修

研修会名	回	内 容	講 師	人数
初任者研修 ※指導主事による 学校訪問は除く	4	① 生徒指導・教育課程について	本市指導主事	40
		② カウンセリング実技(2回開催)	本市臨床心理士 本市職員(自治振興課・文化財保護課・まちの活性化課)	34
		③ 地域教材・地域人材等の活用		33
2年次研修 ※指導主事による 学校訪問は除く	4	① 2年次研修について	本市指導主事	18
		② 社会体験研修A	中央図書館職員	18
		③ 社会体験研修B	木馬園・こども園職員	18
		④ 班別研究授業	本市指導主事	18
10年経験者研修	2	① 10年経験者研修について	本市指導主事	19
		② 実践交流会	本市指導主事	19

初任者及び2年次研修	1	実践交流会	本市指導主事	32
10年経験者及び初任者研修	1	10年経験者による研究授業	本市指導主事	52
10年経験者及び2年次研修	1	不登校問題について	府SSW	18
救命救急講習（中止）	0	普通救命講習Ⅱ	泉州南広域消防本部 救命救急士	0
教育支援センター研修	2	教育支援センター活動体験	教育支援センター長 本市指導主事	6

○学校行事事業 <評価> A

学校水泳や音楽会等の学校行事の支援

・学校水泳受講者のべ人数

小学校 令和3年度 10,555人（令和2年度 中止）

中学校 令和3年度 1,995人（令和2年度 中止）

・送迎バス運行回数

小学校 令和3年度 20回（令和2年度 中止）

・小中学校合同音楽会参加学校数

（新型コロナウイルス感染症拡大により事業中止）

小学校 令和3年度 未実施（令和2年度 未実施）

中学校 令和3年度 未実施（令和2年度 未実施）

・通学時送迎バス年間運行日数

第一小学校（登校時2便、下校時2便）

令和3年度 218日（令和2年度 198日）

大木小学校（登校時1便、下校時2便）

令和3年度 216日（令和2年度 192日）

○おおさか元気広場推進事業 <評価> B

学校休業日の土曜日において、子どもの安全で安心な活動場所を確保し、地域の参画・協力を得て、子どもの体験・交流活動及び学習活動等の機会を提供している。また、平成29年度からは月1回、近隣の団体や大学生と一緒に様々な活動を実施している。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、4月から12月まで実施できなかった。

・参加児童数 令和3年度 1,135人（令和2年度 3,461人）

○小中学校教材整備事業 <評価> B

①情報教育に係るパソコン教室の機器の維持管理

平成30年度から3年間で全小中学校の教育用コンピューターの更新業務を行った。

・教育用コンピューター設置状況	小学校	13校	513台
	中学校	5校	205台

○小中学校教育研究事業 <評価> B

図書館司書による学校図書館への巡回指導。英語教育のための外国人指導者の巡回指導。英語指導助手については、令和元年度から直接雇用となり、所属中学校から近隣の小中学校をに曜日を固定して巡回できるようになったため、英語教育の充実につながった。

・学校図書館司書配置状況	令和3年度	7人	(令和2年度7人)
・英語指導助手配置状況(ALT)	令和3年度	5人	(令和2年度5人)

○小中学校健康管理事業 <評価> A

児童・生徒及び教職員の健康管理をした。

・就学時健康診断受診者数	令和3年度	765人	(令和2年度706人)
・結核検診問診調査実施人数	令和3年度	6,907人	(令和2年度7,072人)
・尿検査実施延べ人数	令和3年度	13,538人	(令和2年度14,322人)
・心臓検診実施人数	令和3年度	1,490人	(令和2年度1,470人)
・脊柱側彎症検査実施人数	令和3年度	1,564人	(令和2年度1,643人)

○小中学校就学奨励事業 <評価> B

児童・生徒の保護者で、経済状態が生活保護世帯に準ずる程度と認められる世帯に対し、教材費等の一部を援助した。支援学級に入級している児童・生徒の保護者で、基準額以下の世帯に対し、教材費等の一部を援助した。

・要保護及び準要保護児童生徒援助費補助事業受給件数	小学校	令和3年度	883件	(令和2年度891件)
	中学校	令和3年度	444件	(令和2年度501件)
・新入学受給件数	小学校	令和3年度	119件	(令和2年度158件)
	中学校	令和3年度	142件	(令和2年度153件)

○中学校教育振興事業 <評価> B

課外クラブ活動の資質向上を図るため、中学校に対し活動の助成を行った。また、平

成29年度より老朽化した備品整備のため、助成額を増額した。

・課外クラブ助成額

令和3年度 2,248,110円（内備品整備分 750,000円）

令和2年度 3,091,920円（内備品整備分 1,545,960円）

・課外クラブ数

スポーツ 令和3年度クラブ数49クラブ（令和2年度クラブ数49クラブ）

令和3年度生徒数1,269人（令和2年度生徒数1,350人）

文化 令和3年度クラブ数23クラブ（令和2年度クラブ数23クラブ）

令和3年度生徒数 385人（令和2年度生徒数 421人）

○泉佐野まなびんぐサポート事業 <評価> A

①「まなびんぐサポート」

放課後学習をすべての学校で実施しており、学習支援ボランティア（教職経験者・大学生・地域人材）等人材支援を行った。

・実施学校 小学校13校、中学校5校で週1～2回実施

・実施回数 小学校 令和3年度1226回（令和2年度2232回）

中学校 令和3年度 270回（令和2年度 344回）

（令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に関わる休校に対する措置としての追加回数を含む）

②算数サポート補助教員事業

特に算数の学習・学力の定着に問題のある小学校に対し、算数補助教員を派遣し、算数の授業での学習支援を行った。

・実施学校 小学校 令和3年度4校（令和2年度4校）

・実施時間 1校の年平均 令和3年度約744時間（令和2年度約740時間）

③中学校部活動指導員配置事業

府の補助金を活用し、各分野に優れた地域人材を各中学校に配置し、クラブの活動を支援した。

・実施クラブ数 令和3年度11クラブ（令和2年度10クラブ）

④体力向上プログラム推進校スポーツ交流事業

平成27年2月に本市と学校法人日本体育大学との間で「体育・スポーツ振興に関する協定」を締結したことに基づき、佐野台小学校児童を日本体育大学に派遣し、有力選手による競技指導や教員を志望する学生とのスポーツ交流を通じて、積極的に運動しようとする意識の向上を図り、児童の体力向上を推進するもの。

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により事業中止。

⑤学習支援ソフト導入管理業務委託事業

学習支援ソフト（東京書籍問題データベースタブレットドリル）を導入し、ICT環境により身近に触れることを通じて、積極的に自学自習を行う意識の向上を図ることを目的とするもの。

- ・対象校 ICTを活用した学習に取り組んでいる小学校
- ・対象科目 国語及び算数
- ・使用期間 令和元年度10月1日から令和6年度9月30日まで

○泉佐野市の未来を創る教育事業 <評価> B

子どもの未来を育む教育の推進につながる事業に対して補助を行う。

・泉佐野市立小学校	13校	1,450,000円
泉佐野市立中学校	5校	440,000円
泉佐野市学力向上プロジェクトチーム		1,564,000円
		(合計) 3,454,000円

- ・各校には、独自の取り組みへの支援を行うとともに、「泉佐野市学力向上プロジェクトチーム」では、授業研究や研修などの様々な取り組みを推進し、義務教育の質の向上に努めた。
 - ・平成25年度より学力向上アドバイザーを小学校2校に配置。
 - ・公益財団法人日本サッカー協会の「JFAこころのプロジェクト 夢教室」とは、スポーツ選手やスポーツ界の協力を得て、「夢先生」として学校に派遣いただき、仲間と協力することの大切さを教えるとともに、夢を持つこと、それに向かって努力することの大切さなどを子どもたちに伝える事業。
- ※本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により事業中止。

○学校安全緊急対策事業 <評価> B

・児童・生徒の安全の確保

(児童・生徒が生涯を通じて、安全な生活を送る基礎を培う安全教育の一層の推進を図るよう努めた。特に、児童・生徒が自他の安全を確保するため、犯罪の被害にあわないための知識を実践的に理解するとともに、日常生活全般における様々な危険に適切に対応できる能力を育むなど、防災教育の充実を図った。)

- ・小学校において、学校安全管理マニュアルに基づき、門扉の施錠を行った上で、来校者のチェック、不審者発見時の通報を行うための要員の配置を行い、児童等の学校生活の安全を守った。

配置人数 令和3年度 延べ3,887人
(令和2年度 延べ4,167人)

時間数 令和3年度 延べ13,262.5時間
(令和2年度 延べ14,401.5時間)

○教育支援事業 <評価> B

・いじめ・不登校をなくすための取り組みの推進

(いじめ・不登校については、早期に発見し適切な対応ができるように、校内体制の整備充実を進めるとともに、支援の必要な児童生徒のための教育支援センターや教育相談体制などの一層の充実を図った。いじめ・不登校問題については、生徒指導委員会・不登校対策サポート委員会を組織し、実効性のある取り組みを推進した。すべての教職員が、児童・生徒にカウンセリングスキルをもって対応することを基本とし、SC・SSW等の専門家や関係機関と連携したチーム支援で取り組んだ。)

【不登校対策サポート委員会構成メンバー】

会長 市内小中学校長 1名
各校の不登校担当教員
家庭の教育機能総合支援指導員 5名
事務局 学校教育課職員

不登校傾向の児童・生徒に対し、家庭と学校の間時的居場所を提供し、興味・関心のある活動やグループ活動を通して、様々な生活体験や人とのふれあいを深め、生活のリズムを取り戻し、学校復帰や社会的自立につなげることができるよう援助するため事業を行った。

・教育相談件数 令和3年度1,512件(令和2年度1,416件)

・臨床心理士カウンセリング時間

令和3年度733時間(令和2年度618時間)

・家庭の教育機能総合支援相談件数

令和3年度1,385件(令和2年度990件)

・教育支援センター

さわやかルーム 児童・生徒数 令和3年度 8人(令和2年度10人)

シャイン 児童・生徒数 令和3年度13人(令和2年度18人)

・いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための取り組みの推進

全ての子どもが安心して安全に学ぶことができるよう、各校の組織的指導体制のもと、取り組みを推進した。また、生徒指導委員会・不登校対策サポート委員会合同研修会の開催や、校内研修での指導助言等を通じて取り組みを推進した。

令和元年度の条例策定や基本方針の改訂に伴い、教職員が一人で抱え込むことなく、学校が組織的にいじめの防止等のための措置を行えるようSC・SSWが「学校

いじめ防止委員会」「生徒指導委員会」「不登校対策委員会」及びケース会議等に参加できる体制づくりを行った。

P D C A サイクルにより全校の『学校いじめ防止基本方針』も改訂された。また、これらを子ども・保護者に周知するとともに、ホームページを活用し、地域の方に広く周知した。さらに、教育委員会が主体となり泉佐野市いじめ防止対策審議会を開催し、取組の検証を行い専門家の提言をいただいた。

令和3年度1回（令和2年度1回）

取組の効果

- ・授業だけでなく、様々な行事や取組みを進めることにより、義務教育の質の向上を進めることができた。
- ・学校生活全般にわたり児童・生徒の安全確保を進めることができた。
- ・学力支援コーディネーター等の活用が進み、教員の授業力の向上を図ることができた。
- ・「学校いじめ防止委員会」の一員としてS C・S S W等の専門家を加え、いじめを見逃さず、いじめを積極的に認知し、子どもたちを組織的に見守る体制づくりが進んだ。
令和3年度いじめ認知件数 255件 解消率 92.2%（令和3年9月時点）
- ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応について、いじめ防止対策審議会より提言をいただいたことで、取組の方向性が明確になった。

今後の課題

- ・授業研究や職員研修をさらに進め、授業改革に努める。
- ・校門の受付員については、今後とも配置できるよう努める。
- ・コロナ禍において、不登校傾向の児童・生徒が増加しているため、心理の専門家S Cや、福祉的な視点で子どもがあかれている環境に働きかけるため、S S W等との連携を推進し、教員を支援する体制を充実させる。
- ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応のため、いじめ防止対策審議会からの提言をもとに、各校の実態に応じた取組の充実に努める。
- ・全児童生徒を対象にした「成長を促す指導」の充実、子どもが主体的に学べる授業づくり、児童会生徒会活動の活性化など、個性の伸長を図りながら、社会性を育成し、子どもが主体的にいきいきと活動する魅力ある学校づくりに努める。

オ 小中一貫教育

目 標

泉佐野市では、泉佐野市小中一貫教育基本方針（令和元年11月8日）に基づき、令和2年度より現行制度（小学校6年間、中学校3年間）の中で、教職員の連携を深め、児童生徒の9年間の学びと育ちをつなぐ視点で、教育活動をさらに充実させ、全ての中学校区で小中一貫教育の取組みを推進する。

取組及び実績

○泉佐野市小中一貫教育推進事業 <評価> B

泉佐野市小中一貫教育推進委員会の開催

- ・委員会開催回数 1回
- ・泉佐野市小中一貫教育推進委員体制
 - 学識経験者（1名）
 - 校長会代表者（3名）
 - 小中一貫コーディネーター（5名）※市費により配置
 - 市教育委員会職員（3名）

取組の効果

市内全中学校区で、小中学校の教育活動に対する理解は深まり、モデル校区では、「授業がわかる」「学校が楽しい」と回答した割合が高くなった。

また、コロナ禍において、教職員・児童生徒が直接関わるとりくみが十分に進まない一方で、リモートを活用したとりくみが新たに企画され実行できた。

今後の課題

モデル校を中心に様々なとりくみが進んだが、とりくみに対する客観的な効果検証ができていない。

また、校区の実態に応じて、幅広くとりくみを進めてきたが、内容の精選と「小中一貫教育のとりくみ」から「小中一貫教育」への移行に向けた「枠組み」が必要。

【子育て・教育】

(4) 学校教育に関すること

【地域連携の充実】

②「地域教育協議会」の充実

目 標

「地域教育協議会」活動の充実と発展を図る。 (学校教育課)

取組及び実績

○5 中学校区の地域教育協議会の主な取り組み <評価> B

校 区	名 称	日 程	参 加 者
佐野中学校区	すこやかフェスタさの 各校にて実施	10月17日(日)他	204人
新池中学校区	新池ふれあいフェスタ オンライン文化祭	中止 12月17日(金)	— 520人
第三中学校区	和い輪いまつり 中学校区環境美化活動	中止 10月24日(日)	— 64人
日根野中学校区	環境浄化活動	12月	300人
長南中学校区	ふれあい祭 和太鼓鑑賞等	中止 11月	— 720人

○泉佐野市地域教育協議会・地域コーディネーター連絡会(研修会)の開催 <評価> B
3月6日(金) ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

取組の効果

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年どおりの活動が実施できなかった。

今後の課題

- ・地域教育協議会の活動に参加、参画してもらえる新しい人材をさらに確保する。
- ・子どもが主体的に参加、参画する取り組みを推進する。
- ・障害のある子どもや外国籍の子どもなどへの、地域での支援を進める。

【子育て・教育】

(4) 学校教育に関すること

【人権教育の充実】

③人権教育の推進

目 標

人権教育の効果的な推進のための教職員研修の充実を図る。(学校教育課)

取組及び実績

○教職員研修の充実 <評価> B

研修会名	回	内 容	講 師	人数
校園長人権教育研修	1	コロナ禍における人権問題	九州大学名誉教授	21
教頭人権教育研修	1	多文化共生をめざした学校づくり	とよなか国際交流センター職員	18
人権教育推進委員研修会	1	人権教育の推進について	本市指導主事	18
人権教育研修講座	5	・多文化共生と在日外国人教育の授業づくり	大阪府教育センター指導主事	16
		・同和教育の授業づくり	大阪府教育センター指導主事	24
		・「知っていますか？ハンセン病」	国立ハンセン病資料館学芸員	25
		・性的マイノリティの子どもたちの人権に関する授業づくりと学校づくり	大阪府教育センター指導主事	13
		・生徒をエンパワする学校	大阪府立高等学校長	36
新転任人権教育研修	5	・「人権教育について」	本市指導主事	61
		・「同和教育について」	本市指導主事	63
		・人権教育実践報告会(3回)	本市小・中学校教諭、指導主事	55
支援教育研修	2	・泉佐野市アセスメントシートを使った実態把握と適切な支援方法について	NPO法人ゆまにてまなびの場 代表	12
		・個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成・実施・改善に係るPDCAについて	大阪府教育センター指導主事	50

取組の効果

- ・ 5月こども園・7月小中学校からの人権教育ヒアリングにより、各校園の実態把握や指導を行い、校園における人権教育課題のニーズへの対応ができた。
- ・ 小中連携を促進するとともに、人権教育について理解を深めることができた。
- ・ 具体的な実践や教材、指導法についての提案及び発信ができた。

今後の課題

- ・ 増えてきている経験年数の浅い教職員への人権研修の充実を図る。
- ・ 研修内容が各校園で、教職員に広められ、具体的な取り組みとして実践される。
- ・ 研修で得た知識を技能として使いこなす場を設定するなどの校内研修支援を行う。

④人権教育の充実（人権教育の充実のための支援）

目 標

すべての子どもたちが大切にされる学校づくりへ支援する。（学校教育課）

取組及び実績

○障害児支援のための取り組み <評価> B

①障害のある児童・生徒への介助員、加配職員配置数

人数 小学校 令和3年度77人（令和2年度87人）

中学校 令和3年度13人（令和2年度16人）

②介助員研修

開催日	タイトル	講師
7月 9日（金）	学校における体罰防止とアン ガーマネジメントについて	本市指導主事
12月 6日（月）	発達障がいの特性と適切な支 援について	本市指導主事

③相談事業

特別支援教育学校巡回相談事業 令和3年度33回（令和2年度31回）

支援教育相談 令和3年度46回（令和2年度 4回）

理学療法医師診察 令和3年度 3回（令和2年度 3回）

④就学支援委員会

6月10日（木）、11月 9日（火）、11月10日（水）、11月11日（木）

○外国籍児童生徒支援のための取り組み <評価> B

①日本語通訳の必要な児童生徒及び保護者への通訳派遣

人数 小学校 令和3年度12人（令和2年度 9人）

中学校 令和3年度11人（令和2年度 6人）

○進路支援のための取り組み <評価> A

①進路選択支援事業（学費等、進学や就学に関する相談）

相談件数 令和3年度33件（令和2年度31件）

②進路選択支援連絡会（相談員、関係機関等の連絡調整および研修）

実施せず

③泉佐野市「貸付型奨学金」事業

本市に住所を有する世帯に属し、経済的な理由により進学が困難な高校生・大学生に奨学金を貸付けました。

	貸付月額	令和3年度	令和2年度
高等学校	5,000円	2人	0人
私立大学	30,000円	0人	1人
	40,000円	1人	5人
合計		3人	6人

④泉佐野市「給付型奨学金」事業

将来の夢を見据えながら真摯に学習等に取り組んでいる泉佐野市立中学校3年生の生徒の高校進学時に要する費用の一部（10万円／対象生徒1人）を給付した。

令和3年度 申請者141人（うち給付決定者100人）

令和2年度 申請者199人（うち給付決定者100人）

⑤奨学金啓発チラシ（各種奨学金の啓発）

対 象 中学生・保護者（全員、2月は3年生）

配付月 7月、9月、1月

○保護者支援のための取り組み <評価> B

P T A 人権教育研修会の実施

小学校 令和3年度 2校（令和2年度 2校）

中学校 令和3年度 2校（令和2年度 0校）

取組の効果

- ・相談事業への認識が深まり、障害のある児童・生徒への効果的な支援につながった。
- ・外国語通訳の迅速な派遣により、外国籍児童・生徒の支援を行うことができた。
- ・奨学金等に関する情報提供、指導、相談の充実により、大阪府育英会等の予約がスムーズに行えた。また、高校等進学後の奨学金制度についての周知も行うことができた。

今後の課題

- ・介助員の配置など、障害のある児童・生徒への支援を引き続き適切に行う。
- ・外国語通訳者の必要性が高まっており、適切な配置を検討していく。
- ・巡回相談や研修を通して、学校園の取り組みの支援の一層の充実を図る。

【子育て・教育】

(4) 学校教育に関すること

【学校給食の充実】

⑤安心・安全な小学校給食の提供、食育の推進

目 標

- ・学校給食用物資の選定から納品・調理・配送する上で衛生管理を徹底し、安心・安全な学校給食を提供する。
- ・小学校給食が安心・安全に提供できるよう、施設の整備並びに機器の更新・保守点検に努める。
- ・家庭・学校・地域と連携し、食育の推進を図る。 （教育総務課）

取組及び実績

- ・小学校給食の充実

○給食事業 <評価> A

安心・安全な小学校給食を提供はもとより、食の安全性・食を通じた健康に関する啓発活動及び知識の普及活動を進める。

(小学校13校)

- ・給食提供数 令和3年度 児童数4,654人、職員数408人
(令和2年度 児童数4,698人、職員数397人)
- ・年間給食回数 令和3年度 196回
(令和2年度 182回)

※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校行事による給食の提供中止日が通常授業に置き換わり提供日が増加。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4・5月休校による回数減。

各種連絡会議の状況	令和3年度	令和2年度
献立作成会議	年 8回	8回
学校給食会理事会	年 1回	1回
学校給食用物資納入業者登録審査委員会	年 1回	1回
学校給食用物資審査会	年 1回	1回
学校給食用物資購入委員会	年 1回	1回
学校給食事務担当者会	年 1回	1回
物資運営委員会(公益財団法人 大阪府学校給食会)	年 3回	3回
学校給食事務連絡会	年 1回	1回
その他料理教室等開催の状況	令和3年度	令和2年度
郷土の農産物を学ぶ教室	年 0回	0回
各校家庭教育学級と共催の料理教室	年 0回	0回
ふれあい料理教室(秋・冬)	年 0回	0回

小学校児童への食指導	年 83回	97回
P T A 給食試食会	年 1回	1回
センター見学	年 7回	7回

取組の効果

- ・学校給食施設の整備並びに機器の保守点検に努めたことにより、一年を通して、安定した事業運営を行うことができた。
- ・児童応募献立を行い、学校給食献立として採用し、献立表に記載することで、児童が小学校給食に対してより興味を持ってもらえるような取り組みを継続的に行うことができた。
- ・大阪府産の給食用食材（特に米・野菜）を小学校給食用食材に使用し、地産地消の取り組みを継続的に行うことができた。
- ・保護者や小学校と連携を図り、食物アレルギーを持つ児童に対して、情報の提供を始めとする相談対応、安全な代替品や補食の提供など継続的に講じることができた。

今後の課題

- ・残食状況を分析することによって、苦手な食材も克服できるような献立の工夫を行い、栄養バランスを学習する機会へと繋げていきたい。
- ・食品ロス削減に努め、残食の分析やロスができるだけ少ない調理等の取り組みが必要。
- ・施設や設備の老朽化による修繕等については、緊急性・重要性に応じて優先順を考慮する必要がある。
- ・栄養教諭を活用し、より良い食育推進（中学校での食育授業等）を実施できるような環境づくりが必要である。また、保護者、中学校、地域と連携を図り、小学校から中学校にかけての発達段階に応じた「食育」を系統的に推進できるような環境づくりを図る。
- ・衛生管理の徹底及び感染症の予防対策、ノロウイルス感染を含む食中毒事故を未然に防ぐ施策に係る予算確保や感染時の対応マニュアル等の実行について、関係機関との調整及び体制を構築する必要がある。
- ・地産地消の観点から、現在100%の地場産米の使用を継続し、野菜に関しても可能な限り地場産物を使用できるように努めていきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症対策等による臨時休業等に伴い学校に登校できない児童に係る食に関する指導等及び食事支援について、検討が必要。

⑥安心・安全な中学校給食の提供、食育の推進

目 標

- ・学校給食用物資の選定から納品・調理・配送する上で衛生管理を徹底し、安心・安全な中学校給食を提供する。
- ・中学校給食が安心・安全に提供できるよう、施設の整備並びに保守点検に努める。
- ・家庭・学校・地域と連携し、食育の推進を図る。（教育総務課）

取組及び実績

- ・中学校給食の充実

○中学校給食事業 <評価> A

安心・安全な中学校給食を提供はもとより、食の安全性・食を通じた健康に関する啓発活動及び知識の普及活動を進める。

(中学校 5校)

- ・給食提供数 令和3年度 生徒数2,274人 職員数208人
(令和2年度 生徒数2,390人 職員数209人)
- ・年間給食回数 令和3年度 189回
(令和2年度 156回)

※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校行事による給食の提供中止日が通常授業に置き換わり提供日が増加。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4・5月休校による回数減。

各種連絡会議の状況	令和3年度	令和2年度
献立作成会議	年 8回	8回
学校給食会理事会（臨時含む）	年 1回	1回
学校給食用物資納入業者登録審査委員会	年 1回	1回
学校給食用物資審査会	年 1回	1回
学校給食用物資購入委員会	年 1回	1回
学校給食事務担当者会	年 1回	1回
物資運営委員会（公益財団法人 大阪府学校給食会）	年 3回	3回
学校給食事務連絡会	年 1回	1回
その他料理教室等開催の状況	令和3年度	令和2年度
中学校・生徒への食指導	年190回	190回
P T A 給食試食会（研修会を含む）	年 0回	0回
料理教室（生徒対象）	年 0回	0回

取組の効果

- ・学校給食施設の整備並びに機器の保守点検に努めたことにより、安定的に安心・安全な中学校給食を提供することができた。
- ・保護者・中学校・調理業者等と連携し、円滑な給食運営ができるように協議・意見交換を行ったことで、中学校給食を安定して運営することができた。
- ・小学校給食用物資と中学校給食用物資の選定を合同で実施することで、給食用物資の効率的な選定と安定的な確保ができた。また、できる限り地元の給食用食材（特に米・野菜）を学校給食に使用し、地産地消の取り組みを継続的に行うことができた。
- ・中学校給食では献立の工夫や中学校との連携を図り、継続的に残飯・残菜を減らしていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためグループでまとまり楽しく給食を食べることができなくなった影響が継続している。
- ・令和3年度平均残菜率 5. 23%（令和2年度平均残菜率 4. 58%）
※全国平均値6. 93%（環境省（平成27年4月）「平成26年度学校給食センターからの食品廃棄物の発生量・処理状況調査結果」を参照）
- ・生徒応募献立を継続して行うことにより、学校給食に対してより興味を持ってもらえるような取り組みとなった。
- ・生徒対象の料理教室並びに保護者対象の試食会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施することができなかった。
- ・保護者や中学校と連携を図り、食物アレルギーを持つ生徒に対して、情報の提供を始めとする相談対応、安全な代替品や補食の提供など継続的に講じることができた。

今後の課題

- ・設立8年目の運営となり、設備の突発的な修繕や調理機器、消耗品等の消耗摩耗を考慮し、予算の範囲内で緊急性、必要性に応じた対応が必要である。
- ・栄養教諭を活用し、より良い食育推進（中学校での食育授業等）を実施できるような環境づくりが必要である。また、保護者、中学校、地域と連携を図り、小学校から中学校にかけての発達段階に応じた「食育」を系統的に推進できるような環境づくりを図る。
- ・衛生管理の徹底及び感染症の予防対策、ノロウイルス感染を含む食中毒事故を未然に防ぐ施策に係る予算確保や感染時の対応マニュアル等の実行について、関係機関との調整及び体制を構築する必要がある。
- ・災害、停電等に伴う突発的な給食の中止や変更の周知について、効率的な方法も含め、迅速化を図る。
- ・中学校給食センターの給食運営や安全性等について、中学生や保護者にもっと知ってもらうための取り組みを行う。
- ・地産地消の観点から、現在100%の地場産米の使用を継続しつつ、野菜についても可能な限り地場産物を使用できるように努めていきたい。

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止を図りながら、新しい生活様式に対応した安心・安全な給食の実施に努める。

【子育て・教育】

(5) 生涯学習・スポーツに関すること

【生涯学習の推進】

①生涯学習の推進

ア 生涯学習の環境づくり

目 標

市民一人ひとりが個性や能力を伸ばし、生きがいのある充実した生活を送るために、生涯を通して学習活動ができる環境づくりを推進する。（生涯学習課）

取組及び実績

・生涯学習の推進

社会教育団体や文化団体の育成と総合的な学習機能や情報の提供に努めた。

○識字学級運営事業 <評価> B

読み書きの練習を中心とした識字学級に加えて、日本語・漢字などの学習を希望する外国人も受け入れ、事業推進に努めた。

・識字学級の開催 令和3年度 86回（令和2年度 126回）

・よみかきこうりゅうかいへの参加

開催日：11月28日（日） 会場：大阪府教育センター

・人権作品・識字学級生作品展

展示期間：2月26日（土）～3月6日（日） 会場：生涯学習センター

○社会教育団体支援事業 <評価> A

社会教育団体・文化団体の自主的活動を支援することにより、市民全体の文化の向上を図った。新型コロナウイルス感染拡大時は、活動休止した。

・泉佐野市少年少女合唱団の育成と支援（活動：定期練習、定期演奏会他行事出演2回）

・泉佐野市民オーケストラの育成と支援（活動：定期練習、定期演奏会他行事出演3回、

・泉佐野市文化協会への支援と補助金の交付

・泉佐野市の特産品タオルを使った「第12回 全国タオル筆で描く絵てがみコンクール」を開催。

応募総数 令和3年度 1,872作品（令和2年度 2,148作品）

・「全日本アマチュア将棋選手権 in 泉佐野」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。

○生涯学習推進事業 <評価> B

泉佐野市出前講座「かがやき」を実施し、市の事業や施策を講座内容として市職員が説明することにより、市民の市政に関する理解を深め、生涯学習による町づくりを図った。

・泉佐野市出前講座「かがやき」の実施（メニュー37講座）

実施講座 令和3年度 4講座 13回開講 延べ受講者数 326人
(令和2年度 2講座 27回開講 延べ受講者数 1,693人)

*主な参加団体は、企業・町会・学校・一般市民等

○文化祭事業 <評価> B

市民が日頃の芸術文化・生涯学習活動の成果を発表する場として、泉佐野市文化祭を開催した。協賛事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で発表会が中止になったものや、入場者の検温・手指消毒を徹底したり、オンラインで配信したり、入場者を関係者のみにするなど、感染拡大予防策を講じての開催となった。

・市民展（市主催事業）の開催

令和3年度 出展数235点 展示期間3日間 来場者数2,246人
(令和2年度 出展数289点 展示期間3日間 来場者数2,709人)

・協賛事業の開催

令和3年度 協賛団体 6団体 来場者数 917人ほか
(令和2年度 協賛団体 1団体 来場者数 関係者のみ入場)

取組の効果

・識字学級は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、4月25日から6月20日まで中止となった。また、下瓦屋識字学級・樫井識字学級は講師の体調不良もあり休止した期間があった。令和2年度は開催できなかった人権作品・識字学級生作品展を、令和4年2月26日～3月6日に開催した。

・文化祭市民展及び協賛事業（6事業）は新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながら実施した。

・合唱団、オーケストラとともに4月25日～6月20日は新型コロナウイルス感染拡大の影響で活動を休止した。その後は換気・消毒の徹底や人数を減らしての練習など、感染予防対策を工夫しながら練習・活動を行った。

・「全国タオル筆で描く絵てがみコンクール」は、前年度より出品数は減少したが、多くの応募があり、審査・展示・表彰式を予定通り実施した。「全日本アマチュア将棋選手権 in 泉佐野」は、中止となった。

今後の課題

・識字学級については、長年の取り組みにより一定の成果があった。しかし、講師の体調不良などの理由で休講が多くなってしまった。近年は受講者数が少ない状態が続いているが、一方で外国人学習者や障がいのある学習者など「受講者の多様化」が進んでいる。識字学級が「新しい」学習者にどう向き合うかということは、今後の課題となってきている。加えて、新型コロナウイルス感染の影響もあり、受講者が安心して学べるように、感染予

防に努める必要がある。

- ・出前講座「かがやき」は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり開講数が減少に至ってしまった。また、受講される講座に片寄りがあり、市民に広く市の事業や施策を理解してもらう目的から、今後もなお一層の広報を実施していく必要がある。
- ・文化祭市民展については、出品点数・来場者数ともに令和2年度より減少となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響で創作活動に支障が出たことが要因と考えられる。今後も生涯学習センター等の施設で芸術活動をしているクラブや市内の高等学校、支援学校高等部、カルチャーセンターに引き続き出品の呼びかけを実施して、出品数の増加につなげたい。
- ・歌唱や楽器の演奏を伴う少年少女合唱団、市民オーケストラはともに練習は消毒・換気や定員数など対策を講じながら行っている。市民オーケストラは、依頼を受けたイベントに積極的に参加していたが、少年少女合唱団は新型コロナウイルス感染拡大を憂慮して、演奏会以外のイベントへの出演は辞退となった。

イ 生涯学習の推進

目 標

市民一人ひとりが個性・能力を伸ばし、生きがいのある充実した生活を送るために、生涯を通して学習活動が行える「いつでも」「どこでも」「だれでも」学べるまちづくりを推進する。(生涯学習センター)

取組及び実績

- ・社会教育施設での活動の充実（総合的な学習機会や情報の提供）
生涯学習センター及び公民館は、市民の自主的な生涯学習の場として、クラブ等の充実を図り、また、各施設において、ボランティア講師の活用を図るなど、多様な各種講座を開催した。
○クラブの活動状況 <評価> A
生涯学習センター及び公民館に登録しているクラブへの支援を行なった。
登録クラブ数 令和3年度223クラブ（令和2年度224クラブ）
- 各種講座の開催 <評価> A
新型コロナウイルス感染症の影響で、4月25日～6月20日は、全館休館となり実施予定の講座は延期または中止となった。6月21日以降も、受講定員数を前年の半数にするなど対応を図ったが、生涯学習センター及び公民館での多様な各種講座を開催した。

講座開催状況

開催数 令和3年度 407回 (令和2年度 398回)
 延べ参加人数 令和3年度 5,017人 (令和2年度 3,923人)

・社会教育施設の管理及び運営

指定管理制度に移行し、地域住民の学習ニーズに対応するための拠点施設として、より多くの人々が利用できるよう適正な施設管理を行った。新型コロナウイルス感染拡大の影響で4月25日～6月20日は休館し、開館後は会場定員数を半数にするなどの対応を図った。年間利用者数は、令和2年度より増加した。

○施設の年間利用者数 <評価> B

生涯学習センター及び公民館を利用した年間延べ利用者数

令和3年度 101,815人 (令和2年度 86,454人)

(内訳) 生涯学習センター 52,517人 (令和2年度 54,520人)

佐野公民館 13,865人 (令和2年度 13,148人)

長南公民館 9,759人 (令和2年度 9,754人)

北部公民館 17,703人 (令和2年度 17,605人)

日根野公民館 7,971人 (令和2年度 6,992人)

・自学自習支援事業

子どもが自ら学び、自ら習う機会を提供し、子どもの居場所づくりと学ぶ機会の確保、子どものソーシャルスキル向上を目的に自学自習支援事業を実施した。

小学生自学自習学習会

	会場	開催時期	対象者	参加人数	回数
令和3年度	らいふらいんぷら ざいずみさの	6/5～3/12	小学2～6年生	320人	26回
	生涯学習センター			255人	26回
	日根野中学校多目的室			255人	24回
	合 計			830人	76回
令和2年度	旧青少年センター	6/20～3/6	小学2～6年生	348人	25回
	生涯学習センター			342人	25回
	日根野中学校多目的室			349人	25回
	合 計			1,039人	75回

中学生自学自習学習会

年度	会場	開催時期	対象者	参加人数	回数
令和3年	生涯学習	5/13~2/19	中学生	252人	31回
令和2年	センター	7/8~2/20		188人	26回

夏休み 自習室

年度	会場	開催時期	対象者	参加人数	回数
令和3年	生涯学習セ	開催せず	小学生・中学生	0人	0回
令和2年	ンター他	8/1・8/8		61人	8回

取組の効果

- ・講座については、市民の多種多様化する価値観に対応すべく、創意工夫した新規講座を実施している。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響や緊急事態宣言の発令により、4月25日～6月20日の全館休館や開館後の時間短縮開館、各部屋の定員数を減少するなどの対応を諮った。その他の感染防止対策を講じたため、コロナ禍以前の状態まではいかないが、利用者数が回復した。
コロナ禍以降の講座について、三密をさけるため講座の定員を約半数に設定し、連続学習会「縁J O Y大学」は会場を生涯学習センター多目的室からより広い会場の泉の森ホール小ホールにするなど、安心して参加してもらえるように感染予防対策を講じた。
- ・自学自習支援事業は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により4月・5月の自学自習学習会、及び長期休み自学自習学習会は中止となった。

今後の課題

- ・講座内容のより一層の充実、広報活動の拡充を図る。
- ・リピーターの確保に努める一方、リピーター以外の施設利用及び講座への参加を促進する。
- ・潜在的課題やニーズを把握し、指定管理者とともに、だれもが学習に取り組みやすくなるよう学習の情報や場の提供を充実させていく。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員数の減少、会場の消毒、換気、参加者への協力依頼など対策を継続して行い、市民が安心して、学習や集会活動が行えるよう努める。
- ・自学自習支援事業では漢字検定に加えて令和2年度より英語検定を実施し、多くの受験者がいた。今後、市民の学習意欲を高める動機づけとなうよう、継続して検定を実施していきたい。

ウ 資料・情報提供の推進

目 標

図書館においては、市民の本棚として、市民の求める資料・情報を提供するために新鮮な資料を豊富にバランスよく収集し、子どもから大人まで、あらゆる人びとに応じたきめ細かなサービスを提供し、市民の幅広い活用を進める。（生涯学習課）

取組及び実績

・図書館の情報拠点化

図書館は、自ら学び自ら高めようとする市民の生涯学習への意欲を支援し、知的な出会いの場として、さまざまな活動の情報拠点として機能充実に努めた。

○図書館運営事業 <評価> B

中央図書館・移動図書館・佐野公民館図書室・長南公民館図書室・北部公民館図書室・日根野公民館図書室の運営及び、図書の管理・貸出業務。映画会・おはなし会の開催などの利用促進に関する業務。

令和3年4月からインターネット上で電子図書が利用できるいずみさの電子図書館を開設するなど新しい事業に取り組んだ。

1 蔵書状況

(1) 蔵書冊数

(点)

	館名	中央	移動図書館	佐野	長南	北部	日根野	計
令和3年	総数	308,644	18,143	45,047	43,332	23,697	40,285	479,148
	(うち児童書)	79,582	10,319	14,703	15,733	9,953	15,568	145,858
	(うち視聴覚資料)	21,412	10	1,887	1,794	102	6	25,211
令和2年	総数	298,806	19,478	47,618	45,158	23,344	39,911	474,315
	(うち児童書)	77,585	11,001	15,534	16,165	9,798	15,279	145,362
	(うち視聴覚資料)	24,182	10	1,883	1,756	91	5	27,927

(2) 新聞・雑誌購入タイトル数

(点)

年度	館名	中央	佐野	長南	北部	日根野	計
令和3年	新聞	10	6	7	8	8	39
	雑誌	79	20	21	25	26	171
令和2年	新聞	10	7	8	8	8	41
	雑誌	75	19	2	25	27	165

(3) 図書購入冊数

年度	図書費 (円)	購入冊数 (冊)
令和3年度	20,776,73	8,712
令和2年度	13,440,785	7,002

2 利用状況

(1) 個人貸出冊数

(冊)

	館名	中央	移動図書館	佐野	長南	北部	日根野	計
令和3年	総数	173,606	18,512	45,244	20,119	18,261	45,810	321,552
	(うち児童書)	66,796	9,968	15,197	5,274	7,965	27,735	132,935
	(うち視聴覚資料)	10,797	19	1,701	1,245	174	76	14,012
令和2年	総数	177,382	17,670	44,413	18,315	17,774	40,066	315,530
	(うち児童書)	65,530	10,991	13,898	4,050	8,420	23,913	126,802
	(うち視聴覚資料)	11,423	15	2,159	1,196	130	104	15,027

(2) 個人貸出利用者数

(人)

館名	中央	移動図書館	佐野	長南	北部	日根野	計
令和3年度利用者数	36,541	5,139	11,120	4,754	3,699	8,578	69,831
令和2年度利用者数	37,052	4,503	11,027	4,513	3,647	7,753	68,495

(3) 図書館来館者数

(人)

館名	中央	佐野	長南	北部	日根野	計
令和3年度利用者数	93,079	27,425	14,106	14,479	19,778	168,857
令和2年度利用者数	85,168	27,494	13,161	15,565	17,833	159,221

(4) 団体利用

	令和3年度	令和2年度
登録団体数	123 団体	153 団体
貸出利用回数	605 回	759 回
貸出冊数	7,886 冊	10,146 冊

(5) 予約・リクエスト処理件数 (件)

館名	中央	移動図書館	佐野	長南	北部	日根野	計
令和3年度	35,343	991	11,008	3,350	3,874	7,397	61,945
令和2年度	27,495	763	10,005	3,275	3,298	6,387	51,223

(6) レファレンス処理件数 (件)

館名	中央	移動図書館	佐野	長南	北部	日根野	計
令和3年度	1,988	180	770	494	286	561	4,279
令和2年度	1,805	193	723	493	343	526	4,083

(7) 電子図書館利用件数

	令和3年度
資料冊数(年度末)	9,553冊
ログイン人数	1,429人
ログイン回数	5,716回
貸出冊数	3,152冊
予約件数	913件

3 行事の開催状況

開催日	行事名	場所	対象	参加人数
7月1日 ～7月11日	七夕・笹飾り	全館で受付・展示	児童	75名
7月14日	カレン先生の英語でおはなし会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	27名
7月20日 ～8月31日	こわ～いおはなし大集合！なぞなぞもあるよ！	北部公民館図書室	児童	38名
7月21日 ～8月31日	図書館「謎解き」イベント ひゃっか王からの挑戦状	日根野公民館図書室	児童	52名
7月23日	読書感想文を応援します！	中央図書館視聴覚室	児童	延べ18名 (全2回)
7月24日	読書感想文を応援します！	佐野公民館多目的室	児童	9名
7月25日	読書感想文を応援します！	日根野公民館多目的室	児童	10名

7月25日	日曜・祝日おはなし会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	18名
8月1日	おやこDe人形劇	長南公民館多目的室	児童 一般	30名
8月1日 ～10月27日	わたしのおすすめの1冊 ～みんなで作る展示～	全館で受付・展示	児童 一般	263枚応募
8月7日	楽しくプログラミングを 学ぼう	中央図書館視聴覚室	児童 一般	延べ22名 (全2回)
8月8日	楽しくプログラミングを 学ぼう	中央図書館視聴覚室	児童 一般	延べ18名 (全2回)
8月11日	カレン先生の英語でおは なし会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	24名
8月15日	夏休み映画会「劇場版ム ーミン」	日根野公民館多目的室	児童 一般	22名
8月25日	おやこヨガ(なでなでヨ ーガ)	中央図書館視聴覚室	児童 一般	親子1組
9月22日	カレン先生の英語でおは なし会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	26名
9月23日	古新聞を活かそう!	中央図書館視聴覚室	一般	延べ6名 (全2回)
9月26日	日曜・祝日おはなし会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	15名
10月13日	カレン先生の英語でおは なし会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	23名
10月16日	バリアフリー映画会「ハ ンサム★スーツ」	中央図書館視聴覚室	児童 一般	13名
10月17日	日曜・祝日おはなし会(お はなし会の玉手箱)	中央図書館視聴覚室	児童 一般	22名
10月24日	ハロウィンミニ工作会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	8組15名 (全2回)
10月27日	おやこヨガ(なでなでヨ ーガ)	中央図書館視聴覚室	児童 一般	親子6組
10月29日 ～11月30日	読書週間イベント	全館で受付・展示	児童 一般	読書通帳・ブックカバ ー・葉の贈呈など
11月10日	カレン先生の英語でおは なし会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	28名

11月17日	読み聞かせデビュー	中央図書館視聴覚室	児童 一般	4組6名
11月23日	日曜・祝日おはなし会（ストーリーテリングと手遊びわらべ歌）	中央図書館視聴覚室	児童 一般	27名
11月28日	図書館Deボードゲーム	中央図書館視聴覚室	児童	延べ12名 （全2回）
12月1日 ～12月25日	クリスマスまであと何日？アドベントカレンダー（展示）	全館	児童	展示図書は 貸出可能
12月12日	日曜・祝日おはなし会（クリスマスおはなし会）	中央図書館視聴覚室	児童 一般	23名
12月19日	図書館バックヤードツアー（中学生以上向け）	中央図書館	一般	3名
12月19日	図書館バックヤードツアー（小学生向け）	中央図書館	児童	9名
1月7日 ～1月9日	本の福袋	全館	児童 一般	114名
1月16日	手作りけんだまをつくろう！	長南公民館多目的室	児童 一般	親子2組 4名
1月26日	おやこヨガ（なでなでヨーガ）	中央図書館視聴覚室	児童 一般	親子3組
1月26日	おやこヨガ（まねまねヨーガ）	中央図書館視聴覚室	児童 一般	親子1組
1月30日	日曜・祝日おはなし会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	11名
2月9日	カレン先生の英語でおはなし会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	29名
2月2日 ～3月19日	いちょう号からバトンタッチ	移動図書館でメッセージ受付	児童 一般	
2月15日 ～4月10日	いちょう号からバトンタッチ	全館でメッセージを掲示	児童 一般	
3月23日	カレン先生の英語でおはなし会	中央図書館視聴覚室	児童 一般	40名
3月24日 ～3月30日	本のイントロ	全館	児童 一般	70冊展示 （貸出可能）

3月26日	おはなし会コラボイベント	中央図書館視聴覚室	児童 一般	30名
隔月第3土曜日 (偶数月)	午後のキネマ	中央図書館視聴覚室	一般	延べ76名 (全5回)
毎月第2土曜日	土曜子どもシアター	中央図書館視聴覚室	児童	延べ102名 (全10回※)
毎月第1・3 水曜日	おはなし会	中央図書館視聴覚室	児童	延べ282名 (全20回※)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日から6月末までの期間は中止

令和3年度も引き続き、新型コロナウイルス感染拡大による影響で、4月25日から6月20日までの間、図書館施設全館を臨時休館した。開館後は感染拡大予防ガイドラインを参考に対策を取りながら開館した。利用者も各自の感染予防対策を徹底しながら図書館に来館し、一昨年より利用が増加した。令和3年度の人口一人当たりの個人貸出冊数は、3.26冊で、令和2年度の3.17冊より増加となった。

予約・リクエストは、来館しなくてもインターネットでの資料検索・予約申し込みが可能なのに加えて令和2年12月より開始した予約本受取ロッカーの利用も好評で、年々予約件数が伸びている。

また、図書館に来館しなくてもパソコンやスマートフォンからインターネットを利用して電子図書を読む事が出来る令和3年4月より電子図書館サービスを開始した。このサービスは、24時間年中無休で利用可能なため、臨時休館時も本を読みたい市民に案内し利用に繋ぐことが出来た。

行事は、昨年同様、指定管理者が開催した新事業や、ボランティアグループの協力を得て、多くの催しを開催した。新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら、参加者の増加に努めた。昨年11月には、読書活動推進月間にあわせてイベントを開催、図書館利用者に読書通帳やブックカバー、葉などを贈呈して利用促進を図った。

行事参加者総数 令和3年度 1,564人(令和2年度 747人)

・図書館ネットワークの充実

平成31年4月に日根野中学校校区内に日根野公民館図書室が開館し、近隣の多くの市民より利用があった。これにより市内5中学校区全てに図書館施設が設置されることになった。令和元年度の第三小学校に加えて、令和2年度から新たに第一小学校・第二小学校・中央小学校・を移動図書館の巡回ステーションに追加し、既存のステーション長滝町会館を

長南小学校、北中ちびっこ広場を北中小学校に変更した。この結果、公民館図書室が近くにある日根野小学校、長坂小学校を除く市内11の小学校に移動図書館が巡回することになった。また、令和2年の2学期より市内小中学校の児童・生徒全員に「泉佐野こども読書通帳」を配布し、100冊の読書記録を記入した児童・生徒には、表彰状を渡し、より読書に励んでもらえるよう取り組んだ。

中央図書館、移動図書館、公民館図書室を活用し市内全域において組織的にサービスを充実するとともに、市内各機関（学校図書館等）や国立国会図書館・大阪府立図書館・他図書館とのネットワーク環境の整備・相互協力体制の充実を図り、より効率的な情報提供に努めた。

○移動図書館運営事業 <評価> B

移動図書館「いちよう」号の巡回による図書館業務（市内29ステーション）

○図書館車両管理事業 <評価> B

移動図書館「いちよう」号及び連絡公用車の管理業務。

連絡車による公民館図書室連絡巡回及び、近隣図書館との相互協力貸出業務。

1 移動図書館実績

	令和3年度	令和2年度
巡回ステーション数	29ステーション	29ステーション
巡回日数	132日（年間）	148日（年間）
延べ巡回回数	344回	386回

2. 相互貸借実績

	令和3年度	令和2年度
他図書館への貸出	1,220冊	1,104冊
他図書館より借受	2,662冊	2,592冊

中央図書館や公民館図書室の利用困難地域へのサービスである移動図書館については、天候の影響などで止むを得ず巡回を中止することがあり、年度ごとに巡回回数に変動がある。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大での緊急事態宣言時、移動図書館の巡回を休止したため、令和2年度より利用が減少となった。

学校図書館への配本サービスについては、各学校司書が定期的に図書館を利用することや、事前に手配依頼した図書を来館（移動図書館の巡回時を含む）して借りるなどが主流となり、配送車で届けるまでに至らなかった。他図書館への貸出実績はやや増加となった。

取組の効果

- ・市民から図書館の存在を広く認知されており、市民の幅広い情報ニーズに応えた。
- ・図書や視聴覚資料、インターネット等を活用し様々な情報を提供した。

	令和3年	令和2年度
個人貸出冊数	321,552冊	315,530冊
予約件数	61,945件	51,223件

今後の課題

- ・全国平均以下に落ち込んだ人口当たりの貸出冊数を向上させる。

人口1人当たり貸出冊数の比較

	令和3年度	令和2年度
泉佐野市	3.26冊	3.17冊
大阪府下平均（図書館設置市町村のみ）	参考数値 4.58冊	（令和2年度）
全国平均（図書館設置市町村のみ）	参考数値 4.17冊	（令和2年度）

- ・図書館の利用増加に繋げるため、指定管理者と協議して、高度情報化社会に対応した資料提供サービスや、気軽に資料を手にとって利用してもらえるような、資料の展示や書架づくりに努める。
- ・レファレンスサービスを充実させ、よりきめ細かな情報ニーズに応えていく。
- ・インターネットを活用した情報発信を拡充し、読書振興へとつなげる。
- ・「泉佐野子ども読書通帳」以外にも、子どもの読書環境の整備に努める。
- ・今後も、新型コロナウイルス感染予防のため、館内の消毒、換気、来館者の利用制限への協力依頼など対策を継続して市民に安心して利用してもらえるよう読書環境を整える必要がある。
- ・小学校への移動図書館巡回貸出や中学生職業体験など、市内小中学校と連携を取りながら、子どもの読書活動推進に努める。
- ・令和3年11月に制定した「泉佐野市民の心と知識を豊かにする読書活動推進条例」の趣旨に沿って、市民の読書活動を支えるため泉佐野市の読書環境整備に努める。

【子育て・教育】

(5) 生涯学習・スポーツに関すること

【生涯スポーツの振興】

②生涯スポーツの振興（スポーツへの意識向上）

目 標

市民のスポーツへの意識を高めるため、事業の充実や各種スポーツ団体との連携、指導者の育成に努め、スポーツ振興に関する計画策定により、各種スポーツ組織の育成と活動支援を行い、自主的運営が出来るよう活動機会の充実を図る。（スポーツ推進課）

取組及び実績

・スポーツ振興事業の展開（スポーツへの意識向上や関係団体の育成と支援）と各種体育施設管理運営事業に取り組んだ。

○生涯スポーツ振興 <評価> B

生涯にわたるスポーツ活動を推進するため、各種目別のスポーツ競技大会などを開催した。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため7種目の市民競技大会と大阪府総合体育大会の地区大会・中央大会は開催を中止した。（人数は延べ参加者数）

市民競技大会（全19種目）	令和3年度	12種目	2,688人
	(令和2年度)	3種目	542人)
大阪府総合体育大会 地区大会	令和3年度	開催中止	
	(令和2年度)	開催中止	
中央大会	令和3年度	開催中止	
	(令和2年度)	開催中止	

市主催教室

総合体育館・健康増進センター	令和3年度	5教室	295人
	(令和2年度)	5教室	240人)

その他

前年度に続きスポーツフェスタ泉佐野は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を中止したが、市民健康マラソンは参加資格を市内在住・在勤・在学者に限定したうえで2年ぶりに開催した。また、2年連続オンライン開催となったKIX泉州国際マラソンは、各種団体に沿道整理等スタッフの確保は必要なかったが、参加ランナーを募集するためポスターの掲示や市のホームページの掲載、チラシの配架などで周知した。

また、子どもたちにスポーツへの関心を持ってもらう取り組みとして行っている、スポーツ大使による小・中学校での活動（講演会・実技指導）は、令和3年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施しなかった。

スポーツフェスタ泉佐野	令和3年度	開催中止	
	(令和2年度)	開催中止	

市民健康マラソン 令和3年度 180人)
(令和2年度 開催中止)

KIX 泉州国際マラソン 令和3年度 フルマラソン 出走者 41人
ハーフマラソン 出走者 10人
(令和2年度 フルマラソン 出走者 81人
ハーフマラソン 出走者 15人)

スポーツ大使活動

令和3年度 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
(令和2年度 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

○スポーツ関係団体などへの支援 <評価> B

スポーツ団体の支援、指導者の育成、市民のスポーツへの関心を高める活動を行った。

団体、指導者育成への支援

体育協会 令和3年度 19団体加盟 (令和2年度 19団体加盟)
レクリエーション協会 令和3年度 2団体加盟 (令和2年度 2団体加盟)
スポーツ少年団 令和3年度 21団体加盟 (令和2年度 21団体加盟)
スポーツリーダー協議会 令和3年度 会員17人 (令和2年度 会員17人)
スポーツ推進委員協議会 令和3年度 委員26人 (令和2年度 委員26人)

市民のスポーツへの関心を高める活動

キッズスポーツ教室 令和3年度 758人 (令和2年度 215人)
小学生着衣水泳 令和3年度 25人

(令和2年度 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

○各種体育施設管理運営事業 <評価> B

スポーツ推進課が所管する既存のスポーツ施設の利用を促進した。

市民総合体育館 令和3年度 63,033人
(令和2年度 65,921人)
健康増進センター 令和3年度 85,988人
(令和2年度 87,440人)
テニスコート(2ヶ所) 令和3年度 13,173人
(令和2年度 12,819人)

令和2年度は長滝テニスコートのみ、令和3年度は令和4年2月から供用を開始した新町テニスコートの2ヶ月分を含む。

市営プール(令和3年度12ヶ所) 令和3年度 15,011人
(令和2年度10ヶ所) (令和2年度 一般開放中止)

グラウンド（２ヶ所）

令和３年度 ３６，０７８人
（令和２年度 ３７，９０６人）

取組の効果

- ・市民総合体育館及び健康増進センターにおいては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、施設の入場制限を設けたほか、前年度同様に令和３年度も約２ヵ月間を休館にし、さらに３か月余りの１時間時短開館、利用団体による大会の自粛、施設の人数制限などの要因で利用者数は減少したが、クラスターを発生させることもなく安全に運営できた。

今後の課題

- ・生涯スポーツ社会の構築をめざし、ニュースポーツ及び障害者スポーツの紹介や各種競技スポーツの体験などを通じて、幅広い年齢層の市民が、スポーツへの関心を持ち、継続して楽しめるよう、実行委員会に協力し、スポーツフェスタの充実を図る。
- ・障害児者を対象とした市主催の教室やスポーツ推進委員協議会主催の子どもを対象とした教室の参加者数を増やすため、広報誌やホームページ以外に保護者等へのPR方法を検討・実施する。
- ・体育施設の老朽化が進んでいるため、利用者が安全・安心・快適に利用できるよう、計画的な点検や補修、改修を実施する。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で和３年度も休館や時短開館を余儀なくされたが、感染拡大防止対策を講じながら、市のスポーツ振興に努める。

【子育て・教育】

(5) 生涯学習・スポーツに関すること

【地域の社会教育活動への支援】

③組織運営の拡充

目 標

学校施設をスポーツや文化の活動の場として提供する。 （教育総務課）

取組及び実績

・地域社会との連携

○学校開放事業 <評価> B

学校教育活動に支障のない範囲において、市立小学校及び中学校の施設を社会教育、その他公共使用のために開放した。管理運営は各学校に設置する運営協議会が行った。

・実施学校数	小学校	13校、	中学校	5校
・学校施設の利用回数	令和3年度		3,858回	
	(令和2年度		3,813回)	
・利用者数	令和3年度		68,198人	
	(令和2年度		68,664人)	

取組の効果

- ・多くの地域住民が、年間を通じて学校体育施設を有効に活用できた。
- ・地域での積極的なスポーツ活動を支援することにより、市民スポーツの活性化や開かれた学校づくりにつながった。

今後の課題

- ・学校施設開放事業は地域住民が自主的な運営管理を行うものであり、円滑な運営を行うことができるよう支援し、地域の実情に沿って、効果が上がるよう取り組んでいく必要がある。

【子育て・教育】

(5) 生涯学習・スポーツに関すること

【青少年の健全育成】

④青少年の健全育成

目 標

市内の様々な青少年健全育成団体では、活発な自主的活動に加えて、地域を越えた交流事業を実施する一方、少子化の中、青少年を指導する人材育成および地域社会が一丸となって青少年を支える環境づくりを進める。(青少年課・学校教育課)

取組及び実績

・指導者の育成

市内の青少年健全育成団体の自主的活動を支援するとともに、地域と連携し、多様な青少年活動のリーダーとなる人材の育成に努めた。

○指導者・育成者等研修事業 <評価> A

多様な青少年活動に対応できる人材の育成のため、ジュニアリーダーの養成や指導者・育成者の研修を実施した。

・ジュニアリーダー養成講習会

令和3年度 開催日数5日 延べ参加者数 13人

[参加者内訳：受講生4名、ジュニアリーダー2名、ジュニアリーダークラブ6名]

※コロナ禍のため、講習日を4日間に縮小した。

(令和2年度 開催日数5日 延べ参加者数 39人)

[参加者内訳：受講生1名、ジュニアリーダー3名、ジュニアリーダークラブ5名]

・青少年指導者講習会等研修実施日数

令和3年度 参加者数10人

(令和2年度 中止)

・ワクワクふれあいハイキング

令和3年度 参加者数224人

(令和2年度 中止)

・自立心や仲間意識を育む

市内の青少年健全育成団体の自主的活動、そして稲倉青少年野外活動センターでの活動を通じて、人と人の関わり方や自立心・自制心そして仲間意識を育むとともに、子どもたちの居場所づくりに向けた取り組み推進した。

○青少年育成事業 <評価> B

稲倉青少年野外活動センターが子どもたちの居場所の一つになるように、工夫して各種事業を実施した。しかし、施設の老朽化により、常時修理を実施、環境整備に努めながら運営を行っている。

- ・稲倉青少年野外活動センター年間利用者数 令和3年度 51人
 ※コロナ禍のため開館日数減
 (令和2年度 148人)

・非行防止・啓発

地域での安全パトロールや環境浄化を支援するとともに、情報を提供するなど市民への啓発も推進し、地域と連携して青少年の非行を未然に防止するよう努めた。

○環境浄化・非行防止啓発事業 <評価> A

地域の方々と連携し、環境浄化活動や街頭啓発、安全パトロールなどを実施した。

- ・環境浄化活動実施日数 令和3年度 1日 参加者数 80人
 (令和2年度 中止)
- ・非行防止等街頭啓発実施日数 令和3年度 中止
 (令和2年度 中止)
- ・安全パトロール 令和3年度 延べ参加者数 21人
 (令和2年度 延べ参加者数 20人)

取組の効果

- ・稲倉青少年野外活動センターにおいて、青少年の健全育成に資するための活動に供するべく管理運営に努め、子どもの居場所づくりに継続して取り組んでいる。
 しかし、施設の老朽化等により利用者が減少しているため、令和4年度から民間による運用となります。

今後の課題

- ・青少年を支える環境づくりには、既存の施設の活用はもとより、市全域として関係機関や地域の方々の協力が重要である。その一方、少子化が進行していく中で、青少年を指導する人材の育成や青少年を支える環境づくりへの支援が求められている。
- ・「地域の子どもは地域で育てる」という意識を、より多くの地域の方々が共有できるように効果的な取り組みが必要である。
- ・青少年指導員連絡協議会は、青少年の非行防止と健全育成を図ることを目的として、昭和38年より各学校や各中学校区の青少年指導員会等と連携しながら人材育成や非行防止・啓発活動等に取り組んでいる。現在は、青少年指導員として167名を委嘱し、活動しているが、今後より一層活動を活発にしていくためにも、次代を担う人材の確保・育成が必要である。そのためには、青少年指導員の活動についてより多くの方に理解してもらうための広報等の取り組みや、人材育成のための研修や活動への参加を促す取り組みをより一層進めていくことが必要である。
- ・稲倉青少年野外活動センターは、平成26年度から5年間、指定管理者制度へ移行したが、

平成31年4月より直営となっている。施設の周知を行いながら、利用者の増加に努め、引き続き利用促進に努めましたが、施設の老朽化等により利用者が減少しているため、令和4年度から民間による運用となります。

- ・ジュニアリーダー養成講習会は、青少年のよき理解者、よき指導者、さらには将来のよき社会人を育成する事業で、昭和38年より始められた歴史のある事業である。次の世代へと引き継いでいく事業であるが、参加者が平均3～5人程度であり低迷している。平成25年度から対象を中学1年生だけでなく、2年生も対象とした。また、募集チラシを配布するだけでなく、ポスターの掲示についても実施した。今後はさらに参加しやすい環境づくりに努め、事業の重要性・意義を啓発するとともに、中学校及び地域との連携、そしてジュニアリーダーを卒業したOB・OGにも協力を求めるなどの取り組みが引き続き必要である。

4 学識経験者の評価

点検及び評価を行うにあたっては、学識経験者として神於 正博 氏と奥田 哲也 氏に指導及び助言をいただいた。

■総合評価

少子高齢化、グローバル化、IT化等、社会の変化に伴い教育の在り方も変化し、求められるものも多様化してきている。教育行政は、市民や教育現場の現状やニーズを的確に把握し、必要な施策を講じなければならない。

幼保一体化による認定こども園の円滑な運営や、高齢社会における健康増進や生涯学習の推進。訪日外国人に対する多文化共生の意識の醸成。教育現場でのICTの活用及び児童・生徒のネットリテラシーの育成。国や府が行う法や制度の改正に対しては、広く市民に周知・啓発するとともに、施策に反映すること等が挙げられる。

泉佐野市教育委員会が策定した『泉佐野市教育振興基本計画』（平成27年11月）に基づき、前期計画・令和元年度（2019年度）の目標値の点検、評価により達成できなかった指標については後期計画・令和6年度（2024年度）に目標値が達成できるよう努力されたい。

今回の報告書及びヒアリングでは、昨年度同様、国や府のデータや前年度との比較を示すことで、わかりやすいものとなっている。長期にわたり安定して実施されている事業であっても、状況やニーズの変化を注視し、また、コロナ渦において実施できない事業及びやむをえなく縮小した事業はあるが、コロナ渦の『ピンチ』を教育に関する事務のあり方を見直すことができる『チャンス』として、常に問題意識を持って積極的に工夫・改善することを今後も引き続き実践していただきたい。一方で、継続している課題については、より具体的な改善策を示されたい。

教育環境の整備については、小中学校施設のバリアフリー化推進のためのエレベーター設置、災害時の飲料水を確保する避難所としての役割を果たすことができる浄水型プールの設置及び屋内運動場の空調設備が進められるなどの整備事業が充実してきた。

以下に、今回の点検及び評価において特に議論された内容について、項目別に提示する。

【観光に関すること】

≪評価した点≫

◎史跡等保存事業では、日本遺産推進協議会へ参画し、認定記念フォーラムやシンポジュームの開催等、普及啓発関連事業に取り組んでいる。また、AR アプリやYou Tube、パネルディスカッション等を活用しながら、史跡に関する普及啓発及び文化財に興味を持つ地域人材の育成に努めている。

- ◎日本遺産「日根荘」推進事業において、全国荘園サミット in 東京及びパネル展などに取り組んでいる。また、日本遺産ガイド養成講座を実施している。
- ◎重要文化財保存整備事業における大將軍湯保存活用計画では、地域での活用に資するよう古民家カフェのようなアイデアも取り入れる等、よく工夫されている。
- ◎一般事務事業における「いずみさの検定」では、10歳以下の子どもも受検できるよう柔軟に取り組み、泉佐野市の積極的なPRを行っている。
- ◎泉佐野市史編纂事業で収集した史料を日本遺産のPRや特別展・企画展で活用した。

《課題》

- ◎各小学校においては、「歴史館いずみさの」の見学、出前授業を位置付け、その活用を図られたい。
- ◎膨大な時間と労力と費用をかけて編纂された『泉佐野市史』を、出前講座や講演、泉佐野検定等で活用することを検討されたい。
- ◎文化財の保存及び維持管理等について、地域や一般住民をはじめ文化財愛護推進委員の更なる連携協力を図る必要がある。
- ◎文化財理解の拡大及び文化財施設等の実地見学等について、「出前授業」や「出張講演」等を通じて小中学校により積極的に働きかけを行い、市内に存する文化財に関心を持つ児童生徒の裾野を広げるとともに、歴史を使った町づくりの推進を期待する。

【国際化に関すること】

《評価した点》

- ※本年度は、ベトナム社会主義共和国ビンディン省との友好交流事業、青少年海外研修事業、英語教育推進校生徒派遣事業、マラソン交流事業とも、新型コロナウイルス感染症拡大により事業実施できていないため、未評価とした。

《課題》

- ◎長年にわたり継続して実施してきた交流事業を推進していくと同時に、新たな事業の掘り起こしが望まれる。
- ◎国際的な人の往来が制限されたことに伴い、これまでの対面型の交流に加えて、デジタル技術の活用等、新しい形態の国際交流を検討されたい。

【子ども・子育てに関すること】

《評価した点》

- ◎留守家庭児童会の充実について、待機児童を出さずに放課後の児童健全育成に努

めている。

《課題》

- ◎民間の大規模開発等による対象児童数の増加については待機児童を出さないよう対応されたい

【学校教育に関すること】

《評価した点》

- ◎市責で全小学校での35人学級が実現し、学級経営や学力向上に成果を上げている。
- ◎トイレの洋式化改修及び空調設備の設置・プールの整備を行い、教育環境の充実に努めている。
- ◎学校教育課主催の教職員研修の内容が具体的に示され、年度の課題が明確になっている。
- ◎家庭の教育機能総合支援については、家庭も含めた児童生徒の支援に努めている。
- ◎各小中学校の「いじめ防止委員会」「生徒指導委員会」「不登校対策委員会」「ケース会議」等にSC・SSWが参加できる体制づくりを推進し、いじめの認知件数が増加していることから、子どもたちを組織的に見守る体制づくりが進んでいる。
- ◎小中学校給食の実施にあたり、材料における地産地消の観点や児童生徒からの応募献立等を継続することにより給食に関心を持ち、残菜率・食品ロスの改善に向けた取り組みを進めている。
- ◎新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも、計画通りではないが「いずみさの教育文化運動」を推進することができた。

《課題》

- ◎「学力を支える4つの力」に「体力の向上」をプラスしてはどうか」という指摘に対する検討の継続。
- ◎「いじめ防止」に関して、泉佐野市および同教育委員会が策定した「泉佐野市いじめの防止等に関する条例」（令和2年1月策定）、「泉佐野市いじめ防止基本方針」（令和2年1月改定）に示された施策の実現に向けて努力されたい。
- ◎小中学校とも、食物アレルギーを持つ児童生徒について配慮がされているが、大阪府教育委員会の「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」（平成29年2月策定）を活用し、事故防止に努められたい。
- ◎学校における食育推進の中心的な役割を担っている栄養教諭の役割は非常に重要である。このことの意義を踏まえ、適切な配置を大阪府教育委員会、文部科学省に働きかけたい。

- ◎新型コロナウイルス感染症拡大に対応した黙食等給食形態の変化による影響か、全国平均値よりは低い数値ではあるが平均残菜率が前年度よりも増加している。
- ◎児童・生徒のスマホ利用について、道徳の教科書等を活用し、関係機関とも連携しながら、ネットリテラシーを育成し、適切な利用を図りたい。
- ◎防災の観点から、学校内の通路や、教室内の地震時倒壊の可能性のあるロッカー、備品等について転倒防止等の対策を講じたい。
- ◎小中一貫教育を、校区の実態に応じて、とりくみを進めていただきたい。

【生涯学習・スポーツに関すること】

《評価した点》

- ◎コロナ感染拡大の影響で活動休止の事業もあったが、教育団体・文化団体の活動を支援することにより、市民の文化への関心を高め、活動の充実を図っている。
- ◎従来から行われている識字学級に加えて、日本語・漢字などの学習を希望する外国人も受け入れ、事業推進に努め、新たな課題に応えようとしている。
- ◎図書館運営事業では、図書館の利用促進に資するため、貸出図書の返却用ポストや予約図書受取用ロッカーを南海泉佐野駅に設置、巡回ステーションの追加、及び『泉佐野こども読書通帳』の配布等、市民目線に立った新しい市民サービスの取組を進めている。
- ◎青少年の健全育成において、関係団体との連携で、安定した事業が行われている。

《課題》

- ◎生涯学習センターや各公民館等、社会教育施設への社会教育主事等専門職の配置に関して、できるかぎり早急に検討していくべきではないか。
- ◎人口一人当たりの貸出冊数を、目標である府下平均に近づけるためには、新刊書購入が必要であると考え。予算の増額に努められたい。
- ◎出前講座「かがやき」は、講座数、受講者数減であり、ニーズの掘り起こしや内容等の工夫に努められたい。
- ◎ジュニアリーダー養成講習会の受講希望者の少ないことが、例年課題となっているが、ジュニアリーダーとして活動できる環境づくりが求められる。

最後に、本報告書に示したように、教育委員会の事業内容は多岐にわたり、それぞれの施策におけるRPDCA（把握・計画・実行・評価・改善）サイクルの実践には、多くの時間と労力が必要となるが、それらに真摯に対応している教育委員会事務局の姿勢がうかがわれる。しかし、一方では「働き方改革」が提唱されており、現状のスタッフですべての事業を行うにも限界であり、市民サービスの低下につながりかねないので、事務局の増員を要望しておきたい。